

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	01	01	生涯学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	02	生涯学習推進事業

実施計画整理番号	
101010101	
総合戦略 整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
PLANN(計画) 生涯学習情報の提供、市民カレッジの開催、学社融合事業の推進を行うことにより市民がさまざまな学習活動に参加できるようにする	・生涯学習推進協議会を通じて市民意見を取り入れる ・ハロータウンの発行 ・体験活動ボランティア活動支援センター情報誌ハローウィンドウの発行
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
学習活動参加者の増加を図る。	・生涯学習推進協議会の開催(年2回予定) ・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催(3月開催予定) ・市民カレッジの開催(全7回開催予定) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定)

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	469	469	425	469	469	412	469	469	413
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	469	469	425	469	469	412	469	469

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	生涯学習推進協議会・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催	72	72	48	生涯学習の推進に関する事項について審議した。
②	市民カレッジの開催	60	60	30	各種講座を開催し、市民に学習機会の提供を行った(全7回)。
③	学社融合事業	52	52	51	新治小学校で講演会を実施し、地域の教育力の活性化を図った。
④	体験活動ボランティア活動支援センターの運営	285	285	284	広報紙「ハローウィンドウ」の発行を通して、青少年の奉仕活動・体験活動の充実を図った(年2回発行)。
⑤	ハロータウンの発行	0	0	0	市民へ生涯学習情報の提供を行った(年3回)。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		469	469	413	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進協議会の開催(9/30、3/6) ・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催(3/21) ・市民カレッジの開催(9/12、10/17、11/14、12/12、1/16、2/13、3/28) ・学社融合事業の実施(2/4) ・ハローウィンドウの発行(7/7、12/7、3/6) ・ハロータウンの発行(7/1、10/1、1/15)

DO(実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	01	01	生涯学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	02	生涯学習推進事業

整理番号	
101010101	
総合戦略 整理番号	-

<p>28年度活動指標(アウトプット)の達成状況</p> <p>市民カレッジについては、9月から3月までの月1回ずつ合計7回実施 広報紙ハローウィンドウの発行部数 12,500部×2回発行</p>	<p>28年度成果指標(アウトカム)の達成状況</p> <p>市民カレッジの講座1回あたりの参加人数が平成27年度より2名増加し39名となった。</p>	
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
<p>A:妥当である</p> <p>各事業とも、市民の生涯学習活動を推進するために必要な事業であり、妥当である。</p>	<p>A:有効である</p> <p>講座の開催や各種広報紙の発行などを通じて多角的に生涯学習の推進を行うことができしており、有効である。</p>	<p>A:効率的である</p> <p>各事業とも、開催及び発行の回数は適切であり、費用も必要最低限であるので、効率的である。</p>
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
<p>A:実現している</p> <p>生涯学習ガイドブック・自主グループ一覧表等を作成し、学習機会を求める市民に対して情報を適切に提供できている。</p>	<p>A:実現している</p> <p>生涯学習推進協議会・茂原市地域教育力体験活動推進協議会に際し、市民が委員として生涯学習の推進に関する審議をしている。</p>	<p>B:実現に向けて取り組んでいる</p> <p>ハロータウンの編集委員として職員とボランティアが協働して活動し、生涯学習情報の提供に努めている。</p>
所管による評価とその理由、課題・問題点		
<p>A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</p>	<p>生涯学習に対する協議、情報提供、講座等の事業開催と各方向からの成果を挙げたことで、市民の生涯学習活動の推進を図ることができた。課題としては、講座内容について、無料で講師派遣を実施している各種機関の情報にも注視し、幅広い項目を取り入れることによって、より多くの市民に学習の機会を提供できるようにしたい。</p>	
企画政策課での評価とその理由		
<p>A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</p>	<p>各種取り組みにより、市民の様々な生涯学習活動への参加を提供することができたため、当初の目的は達成されたとみとめられる。</p>	
政策調整会議での評価とその理由		
庁議における方針		

<p>29年度活動指標(アウトプット)の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の開催回数 ・広報紙の発行部数 	<p>29年度成果指標(アウトカム)の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の受講者数(新規受講者数)
<p>29年度における事務事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進協議会の開催(年2回予定) ・茂原市地域教育力体験活動推進協議会の開催(3月開催予定) ・市民カレッジの開催(全7回開催予定) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定) 	<p>平成29年度における具体的な目標</p> <p>学習活動参加者の増加を図る。</p>

CHECK(評価)

ACT(改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	07	子育て支援事業

実施計画整理番号	
102010201	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	幼児期の子どもを持つ保護者の、子育てに関する悩みやストレスを軽減させ、家庭教育を充実させる。	地域における子育て支援センターとして、開かれた幼稚園づくりを推進する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 	公立幼稚園4園が、6月～12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	324	324	317	324	325	323	324	324	324
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	324	324	317	324	325	323	324	324

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ふれあい広場事業	324	324	324	地域のニーズに応え、地域に根ざした子育て支援を実施した。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		324	324	324	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
公立幼稚園4園において遊具やおもちゃで遊んだり、各園独自の内容による「わらべ歌」「絵本の読み聞かせ」「人形劇」などを実施した。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	07	子育て支援事業

整理番号	
102010201	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	開催回数 延べ24回(6回/園)		参加した未就園児・保護者 延べ860人 (豊岡173人、五郷192人、新茂原290人、中の島205人)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	子育てふれあい広場や子育て相談などの子育て支援事業は、基本計画にも位置づけられている事業である。	A:有効である	地域の子育て支援に対するニーズに応じている。	A:効率的である	就園前の児童とその保護者を対象として、効率的な実施に努めている。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	広報、各幼稚園で事業実施の周知をしている。	A:実現している	参加した保護者は、気軽に子育て相談をすることができる。	C:実現の余地がない	行政が行う子育て世帯のための事業である。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各公立幼稚園において未就園児のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供することができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各地域の子育て支援センターとしてのニーズに応えており、開かれた幼稚園として機能していることから、成果が認められる。引き続き事業の継続とともに、地域に根ざした支援を推進するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	ふれあい広場の開催回数。		参加した未就園児・保護者の数。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
公立幼稚園4園が、6月～12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。		<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	04	学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030101	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N (計 画) 学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティア活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。 	心の教室相談員の配置。学校支援ボランティアの活用。臨時的任用講師の配置。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費		千円	4,495	4,495	4,235	4,528	4,513	4,257	4,528	4,577	4,240
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,495	4,495	4,235	4,528	4,513	4,257	4,528	4,577	4,240

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	心の教室相談員の配置	927	926	926	児童・教職員の相談にのることでストレスが和らぎ、心にゆとりが持てた。今後はカウンセラー配置校以外の全校に配置できることが望ましい。
②	学校支援ボランティアの活用	125	130	124	学校内外を支援することで児童・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要性がある。
③	臨時的任用講師の配置	3,476	3,521	3,190	講師を配置することでより充実した教育活動が行えた。毎年講師の配置についての見直しが必要である。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		4,528	4,577	4,240	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員を小学校4校に週1～2回(年224時間)配置。 ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草作業、登下校時のパトロール、図書の読み聞かせ等で全14校において活用。 ・講師の配置により、複式学級の解消。

D
O
(
実
施
)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	04	学校教育支援事業

整理番号	
103030101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のため、相談員を4校に1名ずつ配置した。 ・ボランティアの登録人数は増加。 ・複式学級解消のための講師を市費により配置した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・4校で年間1,700件以上の相談を受け、児童のストレス緩和を支援した。 ・複式学級1学級を解消した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	B:やや有効である	心の教室相談員の人数と配置について見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の配置やボランティアの活用、また臨時的任用講師の配置により学校における教育環境の整備を図ることができ、児童や教職員の心的・肉体的負担が軽減された。 ・心の教室相談員は、県事業のスクールカウンセラーと合わせてもまだ全校に配置されていないため、配置について見直しの余地がある。 				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	ボランティアや相談員の配置等、児童の支援という目的において、一定の成果があったと認められる。今後も相談員等の適正な人員及び配置を検討し、円滑な学校教育を推進するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

A C T (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のため、第三者の相談員配置数。 ・ボランティアによる授業支援や交通指導支援等の登録人数と活動人数。 ・児童数の減少により1学年1人の教員配置のない学校について、市費による講師配置を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。(相談回数、相談者数) ・解消された複式学級の数。 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・臨時的任用講師の配置。 		<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	04	学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030102	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N (計 画) 学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティア活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおく。 ・学校支援ボランティアの活用と、各種競技大会及びコンクールの参加の支援。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費		千円	2,110	2,110	2,079	2,110	2,110	2,039	2,110	2,110	2,081
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	252	252	252	252	264	300	252	264	228
	一般財源	千円	1,858	1,858	1,827	1,858	1,846	1,739	1,858	1,846	1,853

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	適応指導教室の運営	1,732	1,732	1,705	不登校児童生徒の学校復帰の支援を図り、15名が高校進学を決め、在校生2名が学校復帰の他、6名が放課後登校等を図れた。まだ学校復帰していない児童生徒もいるため、継続が必要である。
②	学校支援ボランティアの活用	28	28	26	学校内外を支援することで、生徒・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。活用意義が大きいため、今後も継続が必要である。
③	各種競技大会及びコンクール参加支援	350	350	350	大会等に参加することで、一人一人の個を活かした。継続することで、個の伸長と学習意欲の向上を図る。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,110	2,110	2,081	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
D O (実 施)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおき、計27名の児童生徒が在籍し、23名が進学先の決定・学校復帰・部分的な登校につながった。 ・登下校パトロール、図書の読み聞かせ、植木の剪定等に学校支援ボランティアを活用した。

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	04	学校教育支援事業

整理番号	
103030102	
総合戦略 整理番号	-

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況	28年度成果指標(アウトカム)の達成状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数は昨年度と同じ2か所だが、受け入れ人数は増加した。 ・ボランティアの登録人数の増加。 ・大会等への参加を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスの緩和、悩み等の軽減が図られ、23名が学校復帰等好転がみられた。 ・大会等への参加人数は昨年同様である。 						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">妥当性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">有効性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">効率性の評価とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> A:妥当である 円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。 </td> <td> B:やや有効である 適応指導教室の入級児童生徒の増加により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。 </td> <td> A:効率的である ボランティアの活用・配置等、効率的な事業実施に努めた。 </td> </tr> </tbody> </table>		妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由	A:妥当である 円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	B:やや有効である 適応指導教室の入級児童生徒の増加により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。	A:効率的である ボランティアの活用・配置等、効率的な事業実施に努めた。
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由					
A:妥当である 円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	B:やや有効である 適応指導教室の入級児童生徒の増加により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。	A:効率的である ボランティアの活用・配置等、効率的な事業実施に努めた。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> C:実現の余地がない 個人情報を取り扱うため難しい。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。 </td> </tr> </tbody> </table>		「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由	C:実現の余地がない 個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由					
C:実現の余地がない 個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる 学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。					
所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 各学校における教育環境の整備を図ることができ、不登校状態が続いていた児童生徒の適切な学校復帰支援もできた。しかし、児童生徒側のニーズが多様化しており、特別支援の専門知識も必要とされているため、指導員の適正人数の見直しも必要である。							
企画政策課での評価とその理由							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) ボランティアや相談員の配置等、生徒の支援という目的において、一定の成果があったと認められる。今後も相談員等の適正な人員及び配置を検討し、円滑な学校教育を推進するものとする。							
政策調整会議での評価とその理由							
庁議における方針							

29年度活動指標(アウトプット)の設定	29年度成果指標(アウトカム)の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数、受け入れ人数。 ・ボランティアによる授業支援や交通指導支援等の登録人数と活動人数。 ・大会等への参加支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のストレス緩和と学校復帰。 ・大会等への参加人数。
29年度における事務事業スケジュール	
<ul style="list-style-type: none"> ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおく。 ・学校支援ボランティアの活用と各種競技大会及びコンクールへの参加支援。 	平成29年度における具体的な目標 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030301	
総合戦略整理番号	22303

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	児童が、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。	ELTの派遣活用。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 全小学校の児童が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ELTの民間委託し、3名を全小学校に派遣する。 平成28年度の随意契約終了に伴い、平成29年度以降の契約に向けてプロポーザルを実施予定。 	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	12,212	11,463
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	11,145	12,212

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ELTの派遣	11,145	12,212	11,463	3名のELTを全小学校に派遣し、外国語活動の充実を図った。5・6年生の外国語活動は教科にかわるため、より一層の充実が望まれる。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		11,145	12,212	11,463	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
3名のELTを全小学校に派遣した。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

整理番号	
103030301	
総合戦略 整理番号	22303

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ELTを年間37回派遣した。		ELTを年間37回派遣し、5・6年生だけでなく他の学年も活用した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が、必要であるため。	A:有効である	ELTが直接授業を行うことは、コミュニケーションと国際理解の機会を与える有効な手段であるため。	A:効率的である	民間委託をしてコスト削減を図った。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。	その他	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、体験的に言語や文化について理解を深める指導をすることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	学校の授業計画及び要望にそって、ELTを派遣する。(回数)		全小学校の児童が、等しくELTと触れ合う機会の提供。(授業時間数・受講人数)	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ELTの民間委託により、3名を全小学校に派遣する。 ・業務委託によりELTを活用した、教員の指導力向上のための研修を実施する。 		全小学校の全児童が等しくELTと触れ合える機会を提供する。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030302	
総合戦略整理番号	22303

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒が、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。 生徒に、外国の文化、風土、習慣等を自らの肌で感じさせ、国際的視野を広めさせると共に、語学力の向上を図る。	ELTの派遣活用。 中学生を海外へ派遣し、ホームステイによる異文化交流を図る。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒がホームステイや語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう、環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ELTを民間に委託し、4名を全中学校に派遣する。 ・海外研修(オーストラリア)に28名の中学生を派遣する。 ・平成28年度の随意契約終了に伴い、平成29年度以降の契約に向けてプロポーザルを実施予定。 	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	17,010	17,010	17,010	17,010	18,585	18,360	17,010	20,008	19,004
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	17,010	17,010	17,010	17,010	18,585	18,360	17,010	20,008

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ELTの派遣	14,860	16,308	15,304	4名のELTを全中学校に派遣し、外国語学習の充実を図った。音声や基本的な表現力を身に付けるためには、継続して活用する必要がある。
②	中学生の海外派遣	2,150	3,700	3,700	28名の中学生をオーストラリアに派遣し、現地で生活することで異文化と日本の良さを学んだ。多くの生徒に体験してもらうために、継続する必要がある。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		17,010	20,008	19,004	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを全中学校に派遣した。 ・海外研修(オーストラリア)に28名の生徒を派遣した。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	06	国際教育推進事業

整理番号	
103030302	
総合戦略 整理番号	22303

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを年間最大110回派遣した。 ・全中学校の中学2・3年生を対象に海外派遣研修を実施した。(年1回、10日間) 		<ul style="list-style-type: none"> ・4名のELTを年間最大110回派遣した。 ・28名の中学生を海外に派遣し、語学研修を行い、異文化に触れることができた。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。		A:有効である ELTによる授業や海外派遣は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。		A:効率的である 民間委託により、コストの削減を図った。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	その他 行政のみでしか実現できない事業。		その他 行政のみでしか実現できない事業。		その他 行政のみでしか実現できない事業。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、日本と外国の言語や文化について理解を深めることができた。また、海外派遣により、国際的な視野を広めることができた。			
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		生徒の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業計画及び要望にそってELTを派遣する。(回数) ・中学校2・3年生を対象に海外派遣を実施する。(派遣日数) 		<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会の提供。(授業時間数) ・海外派遣や語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付ける。(派遣人数) 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・ELTを民間に委託し、4名を全中学校に派遣する。 ・海外研修(オーストラリア)に28名の中学生を派遣する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくELTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒がホームステイや語学研修を通して異文化に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)情報教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	05	情報教育推進事業

実施計画整理番号	
103030303	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	児童が、情報化時代に対応できるよう、ICT機器操作のスキルと、情報活用能力を身に付けられるようにする。	パソコンをはじめとする、ICT機器の整備と利活用の推進。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するために適したネットワーク環境を整備する。 ・子どもだけでなく、教職員も含めてスキルを向上する。 	学校の情報環境の整備に努める。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	24,887	24,887	24,534	25,536	27,430	26,887	26,186	30,090	30,089
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	24,887	24,887	24,534	25,536	27,430	26,887	26,186	30,090

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ICT機器の設置	26,186	30,090	30,089	各学校の情報教育環境の整備に努めた。
②	ICT機器の研修会の開催	0	0	0	契約業者の担当者を講師として開催した。(年1回)
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		26,186	30,090	30,089	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
各学校の情報教育環境の整備に努めた。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)情報教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	05	情報教育推進事業

整理番号	
103030303	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	教員を対象とした研修会を年1回開催した。		<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するためのネットワーク環境を整備した。 ・研修会を開催し、全校から担当者が参加した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校の情報教育環境を整備することは、市の義務であり妥当である。	A:有効である	情報教育を推進するうえで、機器の整備は必須条件である。	A:効率的である	入札等によりコストの削減に努めているため。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童のICT機器操作スキルと情報活用能力向上に資するものであり、一定の効果があつたものと認められる。引き続き、計画的な環境整備が必要である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	情報教育の推進のための各取り組みに対して、一定の成果があつたものと認められる。今後もICT操作の向上等、スキルの向上に努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	教員を対象とした研修会。(開催回数)		研修会の開催回数。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
学校の情報教育環境の整備に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するために適したネットワーク環境を整備する。 ・子どもだけでなく、教職員も含めてスキルを向上する。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)情報教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	05	情報教育推進事業

実施計画整理番号	
103030304	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒が、情報化時代に対応できるよう、ICT機器操作のスキルと、情報活用能力を身に付けられるようにする。	パソコンをはじめとする、ICT機器の整備と利活用の推進。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するために適したネットワーク環境を整備する。 ・子どもだけでなく、教職員も含めてスキルを向上させる。 	学校の情報環境の整備に努める。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	7,213	7,213	7,035	7,314	8,475	8,028	7,410	9,667	9,666
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	7,213	7,213	7,035	7,314	8,475	8,028	7,410	9,667

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ICT機器の設置	7,410	9,667	9,666	各学校の情報教育環境の整備に努めた。
②	ICT機器の研修会の開催	0	0	0	契約業者の担当者を講師として開催した。(年1回)
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		7,410	9,667	9,666	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
各学校の情報教育環境の整備に努めた。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)情報教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	05	情報教育推進事業

整理番号	
103030304	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	教員を対象とした研修会を年1回開催した。		<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するためのネットワーク環境を整備した。 ・研修会を開催し、全校から担当者が参加した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校の情報教育環境を整備することは、市の義務であり妥当である。	A:有効である	情報教育を推進するうえで、機器の整備は必須条件である。	A:効率的である	入札等によりコストの削減に努めているため。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。	C:実現の余地がない	学校現場への機器の配置のため。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童のICT機器操作スキルと情報活用能力向上に資するものであり、一定の効果があつたものと認められる。引き続き、計画的な環境整備が必要である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	情報教育の推進のための各取り組みに対して、一定の成果があつたものと認められる。今後もICT操作の向上等、スキルの向上に努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	教員を対象とした研修会。(開催回数)		研修会の開催回数。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
学校の情報教育環境の整備に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育を推進するために適したネットワーク環境を整備する。 ・子どもだけでなく、教職員も含めてスキルを向上させる。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030601	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,526	3,526	3,421	3,500	3,500	3,446	3,500	3,501	3,468
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,526	3,526	3,421	3,500	3,500	3,446	3,500	3,501

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	3,500	3,501	3,468	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②	副読本「わたしたちの茂原」の活用	0	0	0	総合的な学習を行う中で3・4年生が郷土茂原を知るもっとも有効な資料であり、今後も活用していく。
③	「茂原学」検討委員会の設置	0	0	0	茂原学は出前授業と学校独自の学習を併用して実施している。今後は学習を継続しながら、検討委員会設置に向けて課題の集積に努める。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,500	3,501	3,468	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、児童の「生きる力」を育む教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり25万円の予算措置を行った。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

整理番号	
103030601	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全小学校全児童が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の創意工夫を重点とした体験学習等により、主体的に取り組む態度と資質の向上が図られ、当初の目的が達成できたと考えられる。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全小学校全児童の受講。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習事業

実施計画整理番号	
103030602	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,752	1,752	1,727	1,750	1,751	1,734	1,750	1,751	1,672	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,752	1,752	1,727	1,750	1,751	1,734	1,750	1,751	1,672

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	1,750	1,751	1,672	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,750	1,751	1,672	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、生徒の「生きる力」を育む教育を推進した。 ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり25万円の予算措置を行った。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習事業

整理番号	
103030602	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全中学校全生徒が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、生徒の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	生徒の創意工夫を重点とした体験学習等により、主体的に取り組む態度と資質の向上が図られ、当初の目的が達成できたと考えられる。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全中学校全生徒の受講。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040101	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・当該児童が、等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	15,860	15,860	15,540	15,860	20,018	18,356	15,860	21,476	20,129
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	15,860	15,860	15,540	15,860	20,018	18,356	15,860	21,476

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	支援員の配置	15,860	21,476	20,129	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		15,860	21,476	20,129	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する児童のいる学校に支援員(17名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業

整理番号	
103040101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を1名増員し、適正配置を図った。		検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な児童に対し、適切な対応を行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	特別支援教育支援員を1名増員したことにより、児童個人に応じた適正な支援が行われ、一定の成果があったものと認められる。今後も適正な支援員の配置を検討して行くものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	支援員の適正配置。(配置数)		配置時間の見直し。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。		

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

整理番号	
103040102	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正配置した。(2名)		検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な生徒に対し、適切な対応を行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援を要する生徒の支援という目的に資する取り組みであり、一定の成果があったものと認められる。今後も支援員との連携を深めるとともに、適正な支援を行うものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	支援員の適正配置。(配置数)		配置時間の見直し。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040102	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・当該生徒が、等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,980	3,980	3,538	3,980	4,081	3,836	3,980	2,993	2,862
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,980	3,980	3,538	3,980	4,081	3,836	3,980	2,993

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	支援員の配置	3,980	2,993	2,862	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,980	2,993	2,862	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する児童のいる学校に支援員(2名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040103	
総合戦略 整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、幼稚園において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・支援を必要とする園児が、等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する園児がいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,639	3,639	2,495	3,639	6,488	5,215	3,639	3,777	3,418
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,639	3,639	2,495	3,639	6,488	5,215	3,639	3,777

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	支援員の配置	3,639	3,777	3,418	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,639	3,777	3,418	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する児童のいる学校に支援員(3名:うち1名は教諭兼務)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

DO
(実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

整理番号	
103040103	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正配置した。(3名:うち1名は教諭兼務)		検討した結果、現状維持。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な園児に対し、適切な対応を行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援を要する園児の支援という目的に資する取り組みであり、一定の成果があったものと認められる。今後も支援員との連携を深めるとともに、適正な支援を行うものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	支援員の適正配置。(配置数)		配置時間の見直し。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050101	
総合戦略 整理番号	-

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	教職員一人ひとりが、自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	各学校での校内研修会の実施、及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実する。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催。 ・教育研究指定校への支援。(中の島小・豊田小) ・校内研究会・研究協議会への支援。 	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費		千円	1,106	1,106	1,058	976	976	949	976	976	976
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,106	1,106	1,058	976	976	949	976	976	976

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	852	852	852	校内研究会・研究協議会の充実のため、支援を図った。教員の資質向上のためには継続が必要である。
②	研究指定校の支援	100	100	100	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
③	学校体育研究会の開催支援	0	0	0	
④	全国学力状況調査の結果分析	24	24	24	学力状況調査の結果をもとに、問題と解答を分析し、児童の学力向上を図った。継続が必要である。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		976	976	976	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で校内研修会を実施した。 ・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。 ・学力状況調査の結果分析会議を年3回開催した。

D
O
(
実
施
)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	08	職員研修支援事業

整理番号	
103050101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 全国学力状況調査の結果分析を年3回行った。 		<ul style="list-style-type: none"> 適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、多数参加した。 学力状況調査の結果分析を行い、授業へ反映させることができた。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な費用である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により、資質の向上を図ることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、教職員の資質・力量の向上という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、取り組みの充実を図る必要がある。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) 全国学力状況調査の結果分析。(調査・分析回数) 		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数、参加者数。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映。(分析対象児童の追跡調査) 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> 全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催した。 教育研究指定校への支援。(五郷小・豊田小) 校内研究会・研究協議会への支援。 		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050102	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	教職員一人ひとりが、自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	各学校での校内研修会の実施、及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等を充実する。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究指定校への支援。(南中・富士見中) 校内研究会、研究協議会への支援。 進路指導充実のための支援。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	875	875	873	775	775	756	775	865	865
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	875	875	873	775	775	756	775	865

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	553	553	553	校内研究会・研究協議会の充実のため、支援を図った。教員の資質向上のためには継続が必要である。
②	進路指導の充実支援	112	112	112	充実した進路指導の実施のための支援を図った。毎年行われるため、継続が必要である。
③	研究指定校の支援	110	200	200	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
④	学校体育研究会の開催支援	0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		775	865	865	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> 各学校で校内研修会を実施した。 進路指導充実のための補助金を支給した。 研究指定校の公開研究会への参加を促進した。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

整理番号	
103050102	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会へ適正な金額の補助金を支給した。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 ・進路指導の支援をした。 		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な回数の校内研修、授業研究、合同研修会等を行い、多数参加した。 ・進路指導の充実を図るための支援をした。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な費用である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により、資質の向上を図ることができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、教職員の資質・力量の向上という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、取り組みの充実を図る必要がある。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。(補助額) ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。(学校数) ・進路指導充実のための支援。(補助額) 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等の開催数、参加者数。 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校への支援。(本納中・富士見中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。 		<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設運営事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

実施計画整理番号	
103060101	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	老朽化した給食調理場を新しくし、学校給食衛生管理基準に適合した施設運営を図るとともに、児童生徒に安心・安全でおいしい学校給食を提供する。	共同調理場及び4単独調理場を廃止して、共同調理場を移転新築し、単独調理場についても統合を図る。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・建設地用地の取得 ・施設の概略、スケジュール、様々な整備手法の比較検討を行い、最小限の経費で最大の効果が挙げられる事業手法を選定することを目的とした基本計画を策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設用地の不動産鑑定を実施し、取得する。 ・基本計画策定支援業務委託契約を締結する。 	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費		千円						0	68,812	67,874
財源内訳	国補助	千円						0	0	0
	県補助	千円						0	0	0
	市債	千円						0	25,900	25,900
	その他	千円						0	0	0
	一般財源	千円						0	42,912	41,974

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	共同調理場の移転新設	0	68,812	67,874	建設地用地を取得し、各種業務委託を実施。今後も学校給食衛生管理基準に適合する施設の早期建設を目指し事業促進に努める。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		0	68,812	67,874	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・建設地用地の不動産鑑定を実施 ・建設用地の取得 ・施設の概略、スケジュール、様々な整備手法の比較検討を行い、最小限の経費で最大の効果が挙げられる事業手法を選定することを目的とした基本計画策定支援業務委託を締結 ・PFI手法を用いて整備となったためアドバイザー支援業務委託を締結 ・建設地の土壌汚染調査及び草刈りを実施

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設運営事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

整理番号	
103060101	
総合戦略 整理番号	-

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況	
平成28年度活動指標なし		平成28年度成果指標なし	
妥当性の評価とその理由 A:妥当である 食育の推進を図るとともに、栄養バランスのとれた安全・安心でおいしい学校給食を提供し、子ども達の健全な育成を図る事業である。		有効性の評価とその理由 A:有効である 基本計画を策定し、PFI手法を用いて整備することとなったため、学校給食衛生管理基準に適合する施設を早期に建設し、将来にわたり児童生徒に、安全・安心でおいしい学校給食を提供することが確実である。	
効率性の評価とその理由 A:効率的である 基本計画を策定し、PFI手法を用いて整備することとなったため、従来方式に比べて市の財政負担額が削減することが見込まれる。			
「情報の共有」の状況とその理由 A:実現している ホームページでの公表		「参加」の状況とその理由 B:実現に向けて取り組んでいる 地元自治会や関係者と協議を行っている	
		「協働」の状況とその理由 B:実現に向けて取り組んでいる 地元自治会や関係者と協議を行っている	
所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 建設用地を取得し、茂原市学校給食基本計画を策定。民間ノウハウの活用や財政負担の平準化等を目的としたPFI手法を用いて給食センターの整備を行うこととなり、施設の早期建設を目指した事業促進に努めることが出来た。しかしながら、当面の間、学校給食衛生管理基準に適合しない老朽化した既存施設から学校給食が提供されるため、引き続き、施設の早期建設を目指した事業促進に努める必要がある。			
企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 当初の目標である、建設用地の取得及び茂原市学校給食基本計画を策定したことにより、達成している。今後も学校給食衛生管理基準に適合した共同調理場の施設運営を図るものとする。			
政策調整会議での評価とその理由 (Blank)			
庁議における方針 (Blank)			

A C T (改 善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定	29年度成果指標(アウトカム)の設定
	給食提供数 6590	環境衛生基準対応率 50
29年度における事務事業スケジュール ・アドバイザー支援業務委託を締結する。 ・建設用地の土壤汚染調査を引き続き実施する。 ・建設用地の草刈りを年2回実施する。 ・事業者選定に向け、実施方針等の公表、特定事業の選定、入札公告を実施し、落札者決定後、基本協定の締結、仮契約の締結、本契約を締結する。		平成29年度における具体的な目標 ・アドバイザー支援業務委託を締結 ・建設用地の土壤汚染調査を実施 ・建設用地の適切な維持管理 ・事業者を選定し、本契約を締結

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	公民館学級運営費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	02	01	公民館学級運営費

実施計画整理番号	
104020101	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民を対象(市内在勤者を含む)とし、趣味、教養等の各種教室を 通年で開催。市民の教養の向上が図れる。	中央・本納・鶴枝、各公民館の主催教室として女性、成人、少年を 対象に各種教室(19教室)を平日、夜間、土曜に開催。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
市外及び郡外公民館が実施している教室を参考にしながら新たな教 室の実施を目指し、新規受講者を開拓する。	・平成28年3月; 予算確定 ・平成28年4月; 広報、HP、ポスター等で受講生募集 ・平成28年5月; 随時開催可能な講座の企画

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,099	1,099	958	1,099	1,097	996	1,099	1,167	1,081
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,099	1,099	958	1,099	1,097	996	1,099	1,167

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中央公民館主催6教室の実施	474	494	410	・開催数:55回 ・延べ参加人数:966人 ・出席率:90%
②	本納公民館主催教室6教室の実施	261	289	289	・開催数:40回 ・延べ参加人数:629人 ・出席率:83.5%
③	鶴枝公民館主催教室9教室の実施	364	384	382	・開催数:53回 ・延べ参加人数:740人 ・出席率:89%
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,099	1,167	1,081	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

中央・本納・鶴枝の各公民館が主催する教室(21教室)については、全て計画どおり実施された。
 ・開催数:148回 ・延べ参加人数:2,335人 ・平均出席率:87.5% ・予算執行率:92.6%

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	公民館学級運営費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	02	01	公民館学級運営費

整理番号	
104020101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	主催教室の開催回数については、計画どおり実行した。		参加者については、主催教室の回数が減ったため、昨年度より減少した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	地域における生涯学習の拠点施設として、各種の講座や事業を実施し、学びや交流の機会を提供した。	A:有効である	誰もがともに学びあう機会を提供し、充実した事業の展開が図られた。	A:効率的である	市民ニーズに対応した多様なジャンルの主催教室を開催し、多くの市民に学習機会を提供した。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	ホームページや広報等で周知するほか、各公民館で掲示をするなどして情報を共有している。	A:実現している	開催数及び延べ参加人数は減少したが、平均出席率は増加している。	A:実現している	地域住民の学習ニーズを積極的に企画・運営に反映させるため、公民館運営審議会を年2回開催している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	主催教室に対する出席率は、3公民館の平均で87.5%であり、昨年度より6ポイント上昇している。しかし、受講者が固定化しているため、周知方法の検討等、新規受講者の獲得に努める必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	主催教室の減少により、参加者数は減少したが、出席率が増加したため、一定の成果があったと認められる。今後は、市民ニーズにあった主催教室を考慮する等、多くの市民が参加できる方策を検討するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室の開催数の増加及び質の向上 ・教室受講者による自主サークル発足の促進 		<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の増加 ・公民館自主グループの増加 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年3月: 予算確定 ・平成29年4月: 広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・平成29年5月: 随時開催可能な講座の企画 		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向け事業の拡大を含めた新規主催事業の実施を検討する。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	勤労青少年ホーム事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	19	03	文化会館主催事業

実施計画整理番号	104020102
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民の文化活動を援助し、教養の向上を図るための講座や事業を充実させる。また、南房総地域の映画館が皆無となった現在、定期的にミニ映画会を開催し上質な映画を提供し続けることにより、将来的に機材を備えた近隣地域の文化活動の拠点となるようにする。	・多様なニーズにあった主催教室を実施する。 ・主催事業として、小規模な映画会を定期的に開催し、上質な映画を上映する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・広報やタウン誌等を活用して広く宣伝し、主催教室、映画会共に参加者を増やす。 ・映画会は、アンケートにより上映協力者が多く潜在することが判明したため、市民の協力を得て上映していく。	・年間を通し広報やタウン誌等を活用し、継続的な情報提供を行う。 ・新たな事業である有料映画会「名作映画を大画面で！」(優秀映画鑑賞推進事業)を、実行委員会を中心に市民協働で開催する。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	371	371	370	371	371	370	371	676	672
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	220	217
	一般財源	千円	371	371	370	371	371	370	371	456

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	主催教室の運営	334	365	363	主催教室を予定通り実施。今後も継続。
②	映画会の開催	37	311	309	映画会、有料映画会を予定通り実施。今後も継続。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		371	676	672	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・主催教室は14教室延べ59回実施、参加者1,287名。 ・「大画面でみる映画会」(無料)は4日述べ8回を実施、参加者823名。 ・新たに「名作映画を大画面で！」(優秀映画鑑賞推進事業)(有料)を実施し、2日で述べ5回、参加者741名であった。

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020102	
1	04	02	01	勤労青少年ホーム事業	2	01	19	03	文化会館主催事業	総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	①主催教室について、新規教室の開催や自主サークル発足等、目標を達成できた。 ②映画会を年4日全8回、有料映画会2日全5回を実施し、目標を達成できた。		①主催教室は、概ね定員数の参加があり、のべ参加者数は1,287人となった。1つの自主サークルが発足し、目標を達成できた。 ②映画会は定着してきており、初めての有料映画会も参加者数741人となり、概ね目標を達成できた。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	低料金で様々な活動の機会を提供する主催教室や、映画鑑賞の場を提供する映画会は、自治体を実施すべき文化事業である。	A:有効である	主催教室をきっかけに、自己啓発のため自主活動や民間教室に参加する人も多い。映画会は近隣に類似事業はなく満足度が高い有効な事業である。	A:効率的である	必要最低限の費用で、質の高い事業を実施できている。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	広報、民間情報誌、ポスター等を活用し、また、児童向け事業は隣接する東部小学校へ直接働きかけ情報を共有している。	A:実現している	休日に主催事業を開催するなど、参加者層の拡大を図っている。	A:実現している	新規事業である有料映画会を市民協働で実施した。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	①主催事業は、運動系の教室やつるしびな教室、料理教室など市民のニーズにあった事業を実施。新たに珈琲教室を加え、充実した事業となった。市民のニーズにあっているかの見極め、新規教室や講師の選定が今後の課題である。 ②映画会は年4日の参加者数823人と定着してきている。有料映画会については新規事業であるが、実行委員会と市民の協働により実施できた。映画は上映演目により参加者層が変動するものであり、上質な作品と集客力のバランスを考慮して作品を選ぶことが重要であり課題である。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	主催教室及び映画会の開催数や参加者については、順調に増加しているものと考えられ、当初の目的を達成していることが認められる。今後も、市民ニーズを勘案し、参加者の増加を図るものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	①主催教室・・・市民のニーズにあった教室を実施する。 ②映画会・・・映画会を定期的に開催し、上質な映画を上映する。		①主催教室・・・新規教室の開催と参加者数の増加。 ②映画会・・・無料映画会は実施回数維持と満足度向上、有料映画会は実行委員会を中心とした活動とボランティアの活用。	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
①主催教室・・・太極拳入門教室(10回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(8回)らくらくヨガ教室(6回)つるしびな教室(8回)ノートパソコン教室(5回)子どもアレンジフラワー教室(3回)コスベルコーラス教室(3回)珈琲教室(2回)オープン料理教室(4回)子ども工作教室(2回) ②映画会・・・大画面でみる映画会(4回)名作映画を大画面で(優秀映画鑑賞推進事業)(10月)		①主催教室・・・新規教室2講座以上、参加目標人数1,300人。 ②映画会・・・無料映画会目標参加者数800人以上、有料映画会の目標参加者数400人。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

実施計画整理番号	
104020201	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
P L A N (計 画)	社会教育関係団体の活動支援に努め、各団体を育成する。
	リーダー研修会や婦人学級等を開催し、指導者の発掘・養成に努める。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
・研修会、講習会の開催による人材の確保、養成。 ・各種団体の会員数の減少に歯止めをかける。	各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) 指導者の発掘、養成を図るための研修会の開催。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	690	690	660	690	888	881	690	888	868
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	690	690	660	690	888	881	690	888

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	連合婦人会の活動支援	155	216	196	茂原市連合婦人会活動に補助金を交付、活動を支援した。今後も引き続き活動を支援する。
②	PTA連合会の活動支援	26	51	51	茂原市PTA連合会活動に補助金を交付、活動を支援した。引き続き活動を支援していく。
③	ボーイスカウト活動支援	17	24	24	ボーイスカウト活動に補助金を交付、活動を支援した。引き続き活動を支援する。
④	子ども会育成支援	492	597	597	茂原市子ども会育成連合会活動に補助金を交付、活動を支援した。引き続き活動を支援していく。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		690	888	868	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
各団体に補助金を交付し活動を支援した。 ①連合婦人会 169千円(七夕おどり、地区別研修会、バザー等) ②PTA連合会 51千円(講演会、研修等) ③ボーイスカウト 24千円(ハイキング、奉仕活動等) ④子ども会育成連合会 580千円(キャンプ研修、新年交歓会、わくわく研修等) 子ども会では育成者講習会を、婦人会においては中央研修会、婦人学級を開催した。

D
O
(
実
施
)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

整理番号	
104020201	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 4件 ・講習会等の開催回数 6回 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 4団体 ・講習会等の参加人数 101人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 女性の社会参加の支援、青少年教育の普及、向上のため、各団体活動に対して、補助金を交付することは妥当である。		A:有効である 補助金を有効活用し、女性の社会参加の支援、青少年教育の普及、向上を図った。		A:効率的である 女性の社会参加の支援、青少年教育の普及、向上のため、団体の運営資金の一部を補助することは効率的である。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している 補助金交付要綱をホームページで公表している。		A:実現している 補助金交付要望書により要望を取り入れている。		A:実現している 団体との情報共有、適切な役割分担に努めている。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		補助金交付などによる活動支援とともに、役員不足や会員減少などの課題を抱えている婦人会や子ども会育成者を対象に講習会を開催し、人材の育成に努めた。女性の社会参加の支援、青少年教育の普及、向上、団体の組織強化には、引き続き補助金の交付等活動を支援していく必要がある。			
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		団体への補助金の交付により、活動の活性化が図られたと認められる。今後も周知・啓発を実施し、団体の活性化を図るものとする。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 ・講習会等の開催回数 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 ・講習会等の参加人数 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
各団体への補助金の交付。 ①連合婦人会(169千円) ②PTA連合会(51千円) ③ボーイスカウト(24千円) ④子ども会育成連合会(580千円) 指導者の発掘、養成を図るための研修会の開催。		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会、講習会の開催による人材の確保、養成。 ・各種団体の会員数の減少を抑制する。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

実施計画整理番号	
105020101	
総合戦略整理番号	32202

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の実現を目指す。	基本的な運動技術の習得を目標に各種スポーツ教室を開催する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
健康づくり・体力づくりはもとより、基本的な運動技術の習得も目標に各種スポーツ教室を開催する。(4教室以上の開催を目指す)	市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の実現を目指すため、幅広い年齢層が受講できるよう各種スポーツ教室を実施する。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	697	697	687	897	885	879	697	1,087	941
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	200	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	200	200	0	0
	一般財源	千円	697	697	687	697	685	679	697	1,087

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	各種スポーツ教室の開催	697	1,087	941	一般対象5教室 中学生対象1教室 今後も継続予定
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		697	1,087	941	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
ヨーガ教室 5～7月・9～11月 計20回 受講者数220人(27年度200人) 太極拳教室 5～7月・9～11月 計20回 受講者数123人(27年度101人) 美と健康づくり体操教室 5～7月・10～12月 計20回 受講者数118人(27年度102人) ノルディックウォーキング教室 12月～2月 計4回 受講者数22人(28年度新規) エアロビクスダンス教室 1月～3月 計10回 受講者数 28人(28年度新規) Jr. バレーボール教室 12/18 受講者数 150名 (28年度新規)

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

整理番号	
105020101	
総合戦略 整理番号	32202

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況 各種スポーツ教室を6教室開催した。(28年度新規3教室)	28年度成果指標(アウトカム)の達成状況 6教室661人参加した。												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">妥当性の評価とその理由</th> <th colspan="2">有効性の評価とその理由</th> <th colspan="2">効率性の評価とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">A:妥当である</td> <td style="width: 35%;">市民のスポーツをするきっかけづくりとして、自治体が事業を実施するのは妥当である。</td> <td style="width: 15%;">B:やや有効である</td> <td style="width: 35%;">定員を超える応募がある教室もあることから、市民のスポーツをするきっかけづくりとして、成果が得られている。</td> <td style="width: 15%;">A:効率的である</td> <td style="width: 35%;">受益者負担の立場から傷害保険等は、受益者が負担している。</td> </tr> </tbody> </table>		妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由		A:妥当である	市民のスポーツをするきっかけづくりとして、自治体が事業を実施するのは妥当である。	B:やや有効である	定員を超える応募がある教室もあることから、市民のスポーツをするきっかけづくりとして、成果が得られている。	A:効率的である	受益者負担の立場から傷害保険等は、受益者が負担している。
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由									
A:妥当である	市民のスポーツをするきっかけづくりとして、自治体が事業を実施するのは妥当である。	B:やや有効である	定員を超える応募がある教室もあることから、市民のスポーツをするきっかけづくりとして、成果が得られている。	A:効率的である	受益者負担の立場から傷害保険等は、受益者が負担している。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th colspan="2">「参加」の状況とその理由</th> <th colspan="2">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">B:実現に向けて取り組んでいる</td> <td style="width: 35%;">広報等で、市民に情報を提供している。</td> <td style="width: 15%;">B:実現に向けて取り組んでいる</td> <td style="width: 35%;">教室に対しての要望等を確認している。</td> <td style="width: 15%;">B:実現に向けて取り組んでいる</td> <td style="width: 35%;">閉講後、参加者の一部がリーダーとなり教室が開催されていない期間に自主的に活動している。</td> </tr> </tbody> </table>		「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由		B:実現に向けて取り組んでいる	広報等で、市民に情報を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる	教室に対しての要望等を確認している。	B:実現に向けて取り組んでいる	閉講後、参加者の一部がリーダーとなり教室が開催されていない期間に自主的に活動している。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由									
B:実現に向けて取り組んでいる	広報等で、市民に情報を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる	教室に対しての要望等を確認している。	B:実現に向けて取り組んでいる	閉講後、参加者の一部がリーダーとなり教室が開催されていない期間に自主的に活動している。								
所管による評価とその理由、課題・問題点 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)</td> <td>市民に定着している事業であり、教室開催の要望が多いが、受講者の年代・性別に隔たりが多いことから、幅広い年齢層が参加できるように、平日夜間にエアロビクス教室と休日にノルディックウォーキング教室を開催した。</td> </tr> </table>		B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	市民に定着している事業であり、教室開催の要望が多いが、受講者の年代・性別に隔たりが多いことから、幅広い年齢層が参加できるように、平日夜間にエアロビクス教室と休日にノルディックウォーキング教室を開催した。										
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	市民に定着している事業であり、教室開催の要望が多いが、受講者の年代・性別に隔たりが多いことから、幅広い年齢層が参加できるように、平日夜間にエアロビクス教室と休日にノルディックウォーキング教室を開催した。												
企画政策課での評価とその理由 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)</td> <td>他市と比較すると教室数が少ない。「市民ひとり1スポーツ」の理念からも市民ニーズに応え、多くの教室を検討すべきである。</td> </tr> </table>		B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	他市と比較すると教室数が少ない。「市民ひとり1スポーツ」の理念からも市民ニーズに応え、多くの教室を検討すべきである。										
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	他市と比較すると教室数が少ない。「市民ひとり1スポーツ」の理念からも市民ニーズに応え、多くの教室を検討すべきである。												
政策調整会議での評価とその理由 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>													
庁議における方針 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>													

29年度活動指標(アウトプット)の設定 各種スポーツ教室を開催する。	29年度成果指標(アウトカム)の設定 多くの受講者が受講できるようにする。
29年度における事務事業スケジュール ヨーガ教室 5~7月・9~11月 計20回 太極拳教室 5~7月・10~12月 計20回 美と健康づくり体操教室 5~7月・10~12月 計20回 ノルディックウォーキング教室 12月~2月 計4回 エアロビクスダンス教室 10月~3月 計18回 Jr. バレーボール教室 12/17	平成29年度における具体的な目標 ・受講者数

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	03	スポーツ振興事業

実施計画整理番号	
105020102	
総合戦略 整理番号	32203 32204

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>市民に、スポーツに参加・親しむ機会を数多く提供し、市民の健康増進を図り、市民スポーツの振興を図る。</p> <p style="text-align: center;">平成28年度の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリースポーツまつり、茂原市スポレク祭等の各種スポーツ大会や軽スポーツ教室、歩こう会等を開催する。(スポーツ推進委員の増員) ・市民体育祭を開催する。(参加者の拡大) ・スポーツ推進審議会を必要に応じて開催する。 	<p>誰でも参加できるスポーツ・レクリエーションの振興を図るため、スポーツ推進委員活動を推進し、ファミリースポーツまつり、茂原市スポレク祭等の各種スポーツ大会や軽スポーツ教室、歩こう会等を開催する。また、体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。そして、総合的なスポーツの振興を図るためスポーツ推進審議会を置く。</p> <p style="text-align: center;">平成28年度スケジュール</p> <p>誰でも気軽に参加できるスポーツレクリエーションの振興を図るため、各種スポーツ大会やイベントを開催する。また体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。さらに、28年度に策定したスポーツ推進計画の中で、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、総合型地域スポーツクラブの設立を支援するための検討委員会を設立する。</p>

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,077	2,077	2,054	2,077	2,107	2,062	2,077	5,335	4,513
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,077	2,077	2,054	2,077	2,107	2,062	2,077	5,335

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市スポーツ推進委員等活動	476	1,260	914	スポーツ推進のための事業の企画・運営について協議し、各種事業を推進した。改善継続。
②	市民体育祭の開催	1,017	1,082	1,009	体育協会と共催し、23競技を実施。現状維持。
③	各種スポーツ大会の開催	410	380	302	誰でも気軽に参加できるイベントの実施および本市発祥のスポーツ「タッチバレーボール」の普及・促進。拡大。
④	スポーツ推進審議会の運営	174	174	87	スポーツ推進に関する事項について審議した。改善継続。
⑤	郷土出身のスポーツ選手による講演会の開催	0	100	302	茂原市出身のプロ野球選手による講演会を開催した。改善継続。
⑥	魅力を伝える情報の発信	0	428	393	広報や掲示板等で、スポーツに関する情報を発信した。現状維持。
⑦	「ラジオ体操・みんなの体操会」の開催	0	968	750	ラジオ体操の普及・推進のため、「みんなのラジオ体操会」を開催した。改善継続。
⑧	「ファミリースポーツ祭り」の開催	0	305	270	家族で参加できる「ファミリースポーツ祭り」を開催した。改善継続。
⑨	「茂原市スポレク祭」の開催	0	185	172	各種軽スポーツがある中で当面は、本市発祥のスポーツ「タッチバレーボール」を実施し、普及・促進を図った。改善継続。
⑩	「タッチバレーボール大会」の開催	0	203	111	本市発祥のスポーツ「タッチバレーボール」を実施し、普及・促進を図った。改善継続。
⑪	統合型スポーツクラブの設立支援	0	250	203	茂原市の実情に適した総合型地域スポーツクラブの設立を支援するため、検討委員会を開催した。
事業費計		2,077	5,335	4,513	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
①	市民スポーツの推進に関するイベントの企画・運営を協議するため、スポーツ推進委員会議を7回開催した。
②	市民体育祭を23競技で開催した。 8月21日～11月26日 参加人数 3,819人。
③	各種スポーツ大会の開催。 第2回もばらタッチバレーボール千葉県大会、ファミリースポーツまつり・茂原市スポレク祭・エンジョイスports教室等
④	スポーツの推進に関する事項について調査・審議するため、スポーツ推進審議会を2回開催した。
⑤	茂原市の実情に適した総合型地域スポーツクラブの設立を支援するため、検討委員会を3回開催した。

DO
(実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	03	スポーツ振興事業

整理番号	
105020102	
総合戦略 整理番号	32203 32204

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況	28年度成果指標(アウトカム)の達成状況																										
市民体育祭、ファミリースポーツまつり、茂原市スポレク祭、タッチバレーボール大会、エンジョイスports教室等を開催した。また、総合型地域スポーツクラブの設立を支援する検討委員会を開催した。	各種事業に述べ5,667人が参加した。																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">妥当性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">有効性の評価とその理由</th> <th style="width: 33%;">効率性の評価とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> A:妥当である スポーツの振興には単に参加・楽しむ機会の提供をするだけでなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がること自治体の役割として必要である。 </td> <td> A:有効である 市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。 </td> <td> A:効率的である 各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。 </td> <td> A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) スポーツ振興は、長期的に継続していくことによって、徐々に成果が表れてくるものであると考えられる。また、市民の健康増進を推進するためには、今後も継続的かつ市民ニーズを勘案し、関係機関と密にしながら効率的な事業の展開をすることが必要である。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 企画政策課での評価とその理由 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 各種イベントの増加により、市民がスポーツに親しむ機会の増加に寄与しているが、参加者が減少していることを鑑みて、スポーツ推進計画に基づき、「市民ひとり1スポーツの基本理念のもと生涯スポーツの普及に努めるものとする。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 政策調整会議での評価とその理由 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 庁議における方針 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div> </td> </tr> </tbody> </table>		妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由	A:妥当である スポーツの振興には単に参加・楽しむ機会の提供をするだけでなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がること自治体の役割として必要である。	A:有効である 市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。	A:効率的である 各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。 </td> <td> A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。 </td> </tr> </tbody> </table>		「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由	B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。	A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。	所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) スポーツ振興は、長期的に継続していくことによって、徐々に成果が表れてくるものであると考えられる。また、市民の健康増進を推進するためには、今後も継続的かつ市民ニーズを勘案し、関係機関と密にしながら効率的な事業の展開をすることが必要である。			企画政策課での評価とその理由 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 各種イベントの増加により、市民がスポーツに親しむ機会の増加に寄与しているが、参加者が減少していることを鑑みて、スポーツ推進計画に基づき、「市民ひとり1スポーツの基本理念のもと生涯スポーツの普及に努めるものとする。			政策調整会議での評価とその理由 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>			庁議における方針 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>		
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由																									
A:妥当である スポーツの振興には単に参加・楽しむ機会の提供をするだけでなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がること自治体の役割として必要である。	A:有効である 市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。	A:効率的である 各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">「情報の共有」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「参加」の状況とその理由</th> <th style="width: 33%;">「協働」の状況とその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。 </td> <td> A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。 </td> <td> B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。 </td> </tr> </tbody> </table>		「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由	B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。	A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。																				
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由																									
B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ホームページでの情報発信に加え、今後はフェイスブック等への情報発信・共有に取り組む。	A:実現している 各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる 各種事業の実施・運営においては、一部ボランティアを活用しているが、今後は登録制度を設置するなど市民協働の推進に向けて取り組む。																									
所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) スポーツ振興は、長期的に継続していくことによって、徐々に成果が表れてくるものであると考えられる。また、市民の健康増進を推進するためには、今後も継続的かつ市民ニーズを勘案し、関係機関と密にしながら効率的な事業の展開をすることが必要である。																											
企画政策課での評価とその理由 B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 各種イベントの増加により、市民がスポーツに親しむ機会の増加に寄与しているが、参加者が減少していることを鑑みて、スポーツ推進計画に基づき、「市民ひとり1スポーツの基本理念のもと生涯スポーツの普及に努めるものとする。																											
政策調整会議での評価とその理由 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>																											
庁議における方針 <div style="border: 1px solid black; height: 50px; width: 100%;"></div>																											

29年度活動指標(アウトプット)の設定	29年度成果指標(アウトカム)の設定				
スポーツ振興に係る事業の開催数	事業への参加人数				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">29年度における事務事業スケジュール</th> <th style="width: 50%;">平成29年度における具体的な目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誰でも気軽に参加できるスポーツレクリエーションの振興を図るため、各種スポーツ大会やイベントを開催する。また体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。さらに、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、検討委員会の中で総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。</td> <td>事業への参加人数(累計)の増加</td> </tr> </tbody> </table>		29年度における事務事業スケジュール	平成29年度における具体的な目標	誰でも気軽に参加できるスポーツレクリエーションの振興を図るため、各種スポーツ大会やイベントを開催する。また体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。さらに、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、検討委員会の中で総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	事業への参加人数(累計)の増加
29年度における事務事業スケジュール	平成29年度における具体的な目標				
誰でも気軽に参加できるスポーツレクリエーションの振興を図るため、各種スポーツ大会やイベントを開催する。また体育協会と共催で市民体育祭を開催し、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。さらに、スポーツを通じた地域づくりを推進するため、検討委員会の中で総合型地域スポーツクラブの設立を支援する。	事業への参加人数(累計)の増加				

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	02	スポーツ団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	05	スポーツ団体支援事業

実施計画整理番号	
105020201	
総合戦略 整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化並びに指導者の育成を図り、競技スポーツの振興と市民スポーツの高揚を図る。	茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団に活動補助金を交付し、それぞれの団体活動を支援するとともに、市民スポーツの振興を図る。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
前年度に引続き、茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団に活動補助金を交付し、それぞれの団体活動を支援するとともに、市民スポーツの振興を図る。	茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化および指導者の育成と競技スポーツの振興並びに市民スポーツの高揚を図るため、より効果的な支援を推進する。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,872	1,872	1,872	1,722	1,872	1,872	1,722	2,257	2,257
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,872	1,872	1,872	1,722	1,872	1,872	1,722	2,257

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	体育協会の活動支援	1,672	2,122	2,122	体育協会活動に補助金を支出した。今後も継続。
②	茂原市スポーツ少年団の活動支援	50	135	135	スポーツ少年団活動に補助金を支出した。今後も継続。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,722	2,257	2,257	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
①体育協会活動補助金の支出	2,122千円
②スポーツ少年団活動補助金の支出	135千円

DO
(実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	02	スポーツ団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	05	スポーツ団体支援事業

整理番号	
105020201	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	体育協会およびスポーツ少年団への活動補助金の交付を実施した。		補助金交付活動団体数			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 競技スポーツの普及、また、青少年のスポーツを通じた健全育成などの活動に対して、自治体が助成することは妥当である。		A:有効である 助成金を有効活用し、競技スポーツの普及、青少年の健全育成を図った。		A:効率的である スポーツの普及・振興には費用がかかるため、団体の運営資金の一部を助成することは効率的である。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる 広報もばらの中で、年3回スポーツ茂原を発行しており、体協およびスポーツ少年団活動の情報提供に取り組んでいる。		B:実現に向けて取り組んでいる 市民体育祭など市民にスポーツに参加の機会を提供している。		B:実現に向けて取り組んでいる 団体によっては、指導者の高齢化が進んでいる状況もあるため、市民ボランティア等の活用も検討する。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		スポーツの普及・振興・団体の組織強化には、団体のみ活動資金では限界があるため、自治体の助成が必要と思われる。また、今後は、それぞれの団体が創意工夫して活動資金の有効利用に努める必要がある。			
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		スポーツ団体等に活動補助金を交付することにより、スポーツ振興や団体活動の活性化に寄与しており、一定の成果は認められる。補助金の交付以外にも、組織強化等の方策を検討するものとする。			
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	補助金の交付件数		活動が活性化された団体数	
29年度における事務事業スケジュール			平成29年度における具体的な目標	
茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化および指導者の育成と競技スポーツの振興並びに市民スポーツの高揚を図るため、より効果的な支援を推進する。			活動団体数の増加	

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

実施計画整理番号	
106020101	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生涯学習活動、文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識の向上を図る	茂原市文化協会と共催により、茂原市文化祭を開催する。
	平成28年度の具体的な目標 会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。	平成28年度スケジュール 第65回茂原市文化祭(10月30日～12月14日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。 65回記念行事を開催

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	209	209	193	499	494	453	499	477	413
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	209	209	193	499	494	453	499	477

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市文化祭の開催	499	477	413	茂原市文化祭実行委員会を組織し、美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。今後も実施していく。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		499	477	413	

<p>平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)</p> <p>第65回茂原市文化祭(10月30日～12月14日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 出品・出演者数3,468名 入場者数12,736名</p>

DO(実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

整理番号	
106020101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	文化祭の開催日数 10月30日～12月14日 22日間 会場数 11会場		来場者数 12,736名 出演団体数、出演者数、出品者数 3,468名			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である 市と文化協会が共催することで、市民の芸術文化活動が推進できる。		A:有効である 市民の芸術文化活動の発表の場を提供することで活動の推進を図る。		A:効率的である 各々の団体の発表の機会を一度に設けることで入場者の増加を期待できる。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している 市広報、市ホームページ、自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。		A:実現している 茂原市文化祭実行委員会を組織し、参加者や参加団体の要望の機会を提供している。		A:実現している 市と文化協会等の文化団体により茂原市文化祭実行委員会を組織し、市民と協働による事業運営を行っている。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		各団体と会場の割り振りや日程について協議しながら進めることで、効率的かつ市民が来場しやすい事業を計画した。今後も限られた施設規模のなかで効率的な事業運営が必要である。			
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		広く市民が文化活動に触れる機会を提供することができ、一定の成果があったものと認められる。引き続き関係団体との連携をし、市民の文化意識の向上を図るものとする。			
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	文化祭の開催日数 会場数		来場者数 出演団体数、出演者数、出品者数	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
第66回茂原市文化祭(10月22日～12月13日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。		会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	01	美術館展示事業

実施計画整理番号	
106020102	
総合戦略整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
広く市民に芸術文化に触れ、鑑賞できる機会を提供し、地域の芸術文化事業の充実を図るとともに、その振興に資する。	地域ゆかりの作家の作品について周知を図るため、美術収蔵品展を開催する。 特に林功作品の収蔵品数は国内有数となった為、入館者の増加を図る為、PRとしてポスター・チラシを作成・配布の上、収蔵品による林功展を隔年で開催する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
収蔵品展については、周辺地域へのPRを行う。 企画展については、周辺地域だけでなく、全国各地へのPRIに努め、市民への浸透と来館者の増加、地域の芸術文化の高揚を図る。	平成27年度からの継続展覧会を含め、年9回の収蔵品展を開催する。 各収蔵品展ポスターをインクジェットプリンターにより作成し、郡内の学校・博物館ほか各施設へのPRIに努める。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	40	40	40	217	260	202	40	86	86
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	40	40	40	217	260	202	40	86

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	収蔵品展の開催	40	86	86	プリンターによるポスター作成と周辺地域へのPR今後も継続。
②	企画展の開催	0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		40	86	86	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

収蔵品展は、平成27年度からの継続展覧会および、地方創生交付金の活用によりPRIに注力した「鳩川誠一展」を含め、年8回開催した。会期中の入館者は、35,701人(目標数値28,000人)。地方創生交付金を活用した「鳩川誠一展」を開催し、これに伴い遺族から新資料の寄贈などの成果があった。

収蔵品展とは別に、「教育委員会所蔵 文化祭市長賞歴代作品展 小中学校 絵画・書道」を開催し、3,356人の入館者があった。収蔵作品1,156点(平成28年度末、収蔵・寄託の合計)中、265点を展示(目標数値180点)。

学芸員による解説会および鳩川誠一展講演会合わせ4回開催、参加者97名

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	01	美術館展示事業

整理番号	
106020102	
総合戦略 整理番号	32103

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況 展示替日数を可能な限り短くし、展覧会期を長くした。活動指標どおり各収蔵展ポスター作成、配布を実施。鳩川誠一展においては地方創生交付金により活動指標を遥かに上回るPRを実施。年間展示作品数、展示解説会等も活動指標どおり達成。	28年度成果指標(アウトカム)の達成状況 収蔵品展の会期中における入館者は、目標数値を超え35,701人であった。
---	---

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	学芸員の調査研究を踏まえ、美術館収蔵の作品を展示し、広く市民に芸術文化に触れる機会を提供するものである。	A:有効である	唯一無二の美術館収蔵作品を展示するため、類似事業はない。来館者にとって魅力ある展覧会企画に努めたといえる。	B:やや効率的である	必要最低限の消耗品予算のみで、事業を行っている。今後もPR用ポスター作成費用が必要と考えられる。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
B:実現に向けて取り組んでいる	ホームページ公表、広報、情報誌掲載、ポスター配布を行っているものの、更なるPRを考える必要あり。	B:実現に向けて取り組んでいる	休館日を減らし、展覧会期を長く設け、第1、第2の展示室のいずれかは観覧できるよう工夫している。	B:実現に向けて取り組んでいる	来館者のアンケートの他、郷土ゆかり作家や共催展示等、地域の文化関係者の意見に耳を傾け展覧会内容を決定している。

C H E C K (評 価)	所管による評価とその理由、課題・問題点	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 会期中の入館者数、年間展示点数は、目標数値を上回っており、またPRに注力した鳩川誠一展の開催単独では過去の同時期に比べて約1,000人の増加があったものの、入館者数には前年度よりも減少傾向が見られる。年間スケジュールの中で、地域の方々の作品発表の場を提供する「共催展示」も重要な事業である。2つある展示室の両方を使用する共催団体(市民美術展、文化祭、小中学校作品展・高校美術展)があるため、一年を通して見られる「常設展示」は無い運用である。「収蔵の作品が見られない」という来館者の声もある。展覧会内容の工夫と更なるPR方法を検討してゆく必要がある。
---	----------------------------	---

	企画政策課での評価とその理由	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割) 入館者数の減少は見られるが、広く市民に文化芸術に触れる機会を提供しており、一定の成果があったものと認められる。今後もPR方法等を工夫検討し、芸術文化に触れる機会の拡大を図るものとする。
--	-----------------------	---

	政策調整会議での評価とその理由	
--	------------------------	--

	庁議における方針	
--	-----------------	--

A C T (改 善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定	日程を工夫し、展覧会期を長く設け、来館者に収蔵作品をご覧頂く機会を増やすよう努力する。年間展示作品数は、収蔵作品1,156点(平成28年度末、収蔵・寄託の合計)中、140点以上を活動指標とする。
	29年度成果指標(アウトカム)の設定	収蔵品展の会期中において28,000人の入館者を成果指標とする。学芸員によるギャラリートーク年4回の参加者60人を成果指標とする。

	29年度における事務事業スケジュール	平成28年度からの継続展覧会を含め、年9回の収蔵品展を開催、各収蔵品展ポスターはA3で作成し、計131ヶ所に配布しPRに努める。学芸員によるギャラリートーク年4回開催。
	平成29年度における具体的な目標	収蔵品展を開催し、地域の芸術文化の振興に資することを目標とする。

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	芸術文化講座事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	03	芸術文化講座事業

実施計画整理番号	
106020103	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。	美術実技講座、郷土資料館実技講座、古文書講座などを開催する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。	美術講座、郷土文化講座「カヤカヤ馬を作る」、歴史セミナー2回、古文書講座(全9回)ともPRに注力し、例年同様に開催予定。	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	117	117	117	95	95	95	95	108	108
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	22	22	22	0	0	0	0	5
	一般財源	千円	95	95	95	95	95	95	95	103

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術実技講座の開催	50	50	50	小学生講座1回開催、一般向け講座3種4回開催。今後も継続。
②	郷土文化実技講座の開催	15	15	15	費用の発生しない歴史セミナーを2回開催。カヤカヤ馬を作る講座開催。
③	古文書講座の開催	30	43	43	9回開催。うち3回分は講師のボランティア。今後も継続。茂原の古文書資料集100部発行。次年度からは市史編纂事業に移行し継続。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		95	108	108	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
年間受講者数は、それぞれ合計で、美術実技講座52人、郷土文化講座15人、歴史セミナー56人、古文書講座36人であった。市史編纂事業をベースとした事業となるが、茂原の古文書資料集を100部発行。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020103	
1	06	02	01	芸術文化講座事業	9	05	05	03	芸術文化講座事業	総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況				28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	(講座の開催回数) 指標設定どおり、美術講座は、小学生講座1回、色ガラスで作るランプ講座1回、油絵講座1回、色鉛筆講座2回を開催。 郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座全9回開催。				活動指標どおりの講座を開催したが、美術講座は定員に対して約6割の参加者に留まった。郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座は8割を越える参加者があった。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	美術講座は、民間・個人の教室との重複がある。郷土文化講座は民間開催はない。いずれも、芸術文化の振興という点では総合計画に合致する。	A:有効である	美術講座では民間・個人の教室との類似性が高いため、初心者向けの体験講座としている。郷土文化講座では、他との類似性は低い。	A:効率的である	講師にもボランティアで講師を務めて頂いている部分があるので、費用的には効率的であるといえる。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	ホームページでの公表、広報、無料情報誌への掲載を行っているが、PRに更なる工夫が必要	B:実現に向けて取り組んでいる	講座の開催日程については、参加者アンケートを参考に、講師との話し合いで決定している。	B:実現に向けて取り組んでいる	講座の内容については、参加者アンケートを参考に、講師との話し合いで決定している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	参加希望者数の減少傾向が見られる。美術講座については、民間・個人の教室との類似性が高い為、初心者向けの1回で作品を完成できる内容としているが、各講座とも、参加者のニーズに答えられるような講座内容の工夫が必要である。						
	企画政策課での評価とその理由							
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	講座の開催回数については、当初の目標を達成しているが、参加者数が減少している講座もあることから、講座内容の工夫や、PR等を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

A C T (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定				29年度成果指標(アウトカム)の設定			
	(講座の開催回数) 美術講座は、小学生講座2回定員各12人、トールペイント講座定員12人、油絵講座定員12人、墨彩画講座2回定員各16人で開催。 郷土文化講座定員10人、歴史セミナー定員30人を2回、古文書講座定員30人で開催。				(参加者数) 各講座定員の7割を目標数値とする。美術講座は、小学生講座計18人、トールペイント講座9人、油絵講座9人、色鉛筆講座計24人。郷土文化講座7人、歴史セミナー21人を2回、古文書講座は21人。			
29年度における事務事業スケジュール				平成29年度における具体的な目標				
小学生講座2回、一般向け美術講座3種4回、郷土文化講座1回、歴史セミナー2回、古文書講座9回を開催予定。				各講座を開催し、広く市民に芸術文化・郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供する。				

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	02	文化振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	08	文化振興事業

実施計画整理番号	
106020201	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民生活に豊かさを与え、文化の薫り高い茂原市を築く。	芸術鑑賞会や小中学校音楽鑑賞教室を実施する。 各文化団体を支援する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。	小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)富士見中・茂原中・西陵中(小)東郷小・豊田小・茂原小・本納小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、文楽鑑賞会、新春歌舞伎観賞会、能・狂言鑑賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,864	2,864	1,864	2,541	3,848	3,808	2,541	3,848	3,758	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	1,800	1,800	800	1,477	2,323	2,323	1,477	2,323	2,324
	一般財源	千円	1,064	1,064	1,064	1,064	1,525	1,485	1,064	1,525	1,434

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	小中学校音楽鑑賞教室の開催	630	630	540	実施予定の7校において実施した。今後も実施していく。
②	芸術文化鑑賞会の開催	0	0	0	親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞機会を提供した。今後も実施していく。
③	もばら音楽祭の支援	160	310	310	もばら音楽祭実行委員会が企画運営する音楽祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
④	文化団体の活動支援	1,751	2,908	2,908	文化団体に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		2,541	3,848	3,758	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
小中学校音楽鑑賞会の開催(中)富士見中・茂原中・西陵中(小)東郷小・豊田小・茂原小・本納小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、文楽鑑賞会、新春歌舞伎観賞会、能・狂言鑑賞会 もばら音楽祭の支援 「まりとけんのラブソング」 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)	

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020201	
1	06	02	02	文化振興事業	9	05	01	08	文化振興事業	総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況					28年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	音楽鑑賞教室の開催日数 7校で1回実施、全7回 芸術文化鑑賞会の開催日数 全6回 補助金の交付件数 5件					音楽鑑賞教室の参加者数 2,459名(実施校の児童生徒数により増減) 芸術文化鑑賞会の参加者数 171名 活動が活性化された団体数 全ての団体で活発な活動が行われた。				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である	芸術文化事業の実施や文化団体を支援することで、市民の芸術文化活動を推進できる。			A:有効である	事業(団体)を継続的に実施、支援していくことが芸術文化の振興につながり、文化団体の安定的な活動も期待できる。		A:効率的である	初心者や小中学生が親しみやすい事業の計画や補助金交付団体の補助対象経費の精査を行っている。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している	市民参加の事業は、市広報、ホームページで募集している。小中学校音楽鑑賞教室は保護者への案内も行っている。			A:実現している	芸術文化鑑賞会は参加者から口頭で感想などを聞いている。小中学校音楽鑑賞教室は感想や要望を報告書に記載している。		A:実現している	小中学校音楽鑑賞教室は実施校に企画立案を任せることで特色ある事業を実施している。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	芸術文化鑑賞会は定員を超える申込みもあり概ね好評である。引き続き親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞の機会を充実させていく。小中学校音楽鑑賞教室は、日頃接する機会の少ない楽器等の生演奏を鑑賞できる機会として学校、児童生徒から好評を得ている。文化団体(事業)の支援を継続していくことで、市民文化活動が継続され、芸術文化の振興につながる。								
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	文化関係団体を支援することにより、組織活動の強化が図られ、成果があったものと認められる。今後もより多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供するものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定					29年度成果指標(アウトカム)の設定				
	音楽鑑賞教室の開催日数 芸術文化鑑賞会の開催日数 補助金の交付件数					音楽鑑賞教室の参加者数 芸術文化鑑賞会の参加者数 活動が活性化された団体数				
	29年度における事務事業スケジュール					平成29年度における具体的な目標				
小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)南中・本納中(小)二宮小・西小・五郷小・萩原小・豊岡小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場) 南総合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)					より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。					

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	10	文化財保護保存事業

実施計画整理番号	
106030101	
総合戦略整理番号	32303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。	茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護管理、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。 郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。	ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,235	1,235	1,063	1,235	1,384	1,204	1,235	1,616	1,446
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	248	248	244	248	248	266	248	268
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	140	140	53	140	129	74	140	140
	一般財源	千円	847	847	766	847	1,007	864	847	1,208

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ミヤコタナゴ・ヒメハルゼミ発生地の保護活動	432	439	391	保護協議会を開催するとともに、地元住民と協働し保護に努めた。
②	市指定文化財及び文化遺産の保護・管理活動	437	340	320	市指定文化財等の保護保存、文化財管理者への管理謝礼を支払った。
③	郷土芸能等保存団体の活動支援	145	285	285	保存団体に対して財政的な援助を行った。今後も支援していく。
④	郷土芸能発表会の開催	90	84	48	発表会を開催することで、郷土の伝統芸能に触れる機会を提供した。
⑤	茂原市文化財審議会の開催	131	131	73	文化財の散逸を防ぎ後世に伝えるため、文化財の調査・指定等を行った。
⑥	地域の文化財の整備と情報発信	0	337	329	文化財マップを作成し、市内の文化財の周知を図った。
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,235	1,616	1,446	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ発生地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 郷土芸能等保存会への補助金交付、郷土芸能発表会の開催(7月30日)4団体出演 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定(2件)一塔両尊四士像・千葉県長生郡役所玄関(車寄)、市指定文化財管理謝礼35件

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030101	
1	06	03	01	文化財保護保存事業	9	05	01	10	文化財保護保存事業	総合戦略 整理番号	32303

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況				28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 3回(タナゴ、セミ) 協議会等の開催回数 5回(文化財、セミ、タナゴ) 調査の実施回数 3回(セミ) 郷土の文化財に触れる機会の提供回数 2回(郷土芸能、タナゴ)				参加人数 環境整備 タナゴ45名 セミ5名 ミヤコタナゴ自然観察会 67名 ヒメハルゼミ抜殻調査 137名			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である		A:有効である		A:効率的である		文化財審議会や保護協議会等の意見をまとめながら事業を進めている。	
	国県市指定文化財等の保護保存を図ることで、文化財に対する理解を深める。		文化財に対する理解が深まることで、郷土愛を育成することができる。					
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している		A:実現している		A:実現している		環境整備や郷土芸能発表会を地元住民や保存団体と協働して行っている。	
	市広報紙や市ホームページを活用して文化財に関する情報を提供している。		保護協議会に地元住民や関係団体が参加することで意見や要望の機会を提供している。					
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		ミヤコタナゴ、ヒメハルゼミ発生地の環境整備は、地元住民、関係機関と協働し環境改善が図られている。市指定文化財を新規に指定し、文化財の保護保存、周知を図った。郷土芸能等保存団体に対し財政的援助を行うとともに、発表会を開催し郷土の文化に触れる機会を提供した。					
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		いずれの取り組みも、文化財の保護保存という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。今後も関係団体と連携を深め、文化財の保護保存及び郷土芸能保存団体の活動支援を図るものとする。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定				29年度成果指標(アウトカム)の設定			
	地元住民と協働による環境整備の実施回数 協議会等の開催回数 調査の実施回数 郷土の文化財に触れる機会の提供回数				参加人数			
29年度における事務事業スケジュール				平成29年度における具体的な目標				
ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年3回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼				水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。 郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。				

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	郷土資料館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	02	郷土資料館展示事業

実施計画整理番号	
106030103	
総合戦略整理番号	32103

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>広く市民に文化財を公開し、郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、文化財保護思想を普及する。</p>	<p>郷土の歴史について周知を図るため、郷土資料館常設展示を開催する。 特に子どもたちへの理解と愛着を深められるよう、学校からの見学への解説対応や出前講座などを行なう。</p>
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<p>郷土資料館単独でのポスター作成は効率的でないため、美術館の収蔵展ポスターに情報を掲載してPRに努め、来館者の増加を図る。</p>	<p>常設展示を開催すると共に、テーマ展、昭和の小部屋コーナー等の展示内容について企画を練り、定期的な展示替えを行う。 2階市民ギャラリーは、利用状況に応じ、空き期間が長い場合は、随時、郷土の昔の写真展示等を行う。 学校からの見学依頼、出前講座の依頼があった場合は、積極的に対応する。</p>	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	26	26	26	26	26	26	26	25	24
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	26	26	26	26	26	26	26	25

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	常設展の開催	26	25	24	テーマ展4回、昭和の小部屋コーナー8回、昔の写真展2回等の解説、資料キャプション等を作成する消耗品購入。今後も継続。
②		0	0	0	
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		26	25	24	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<p>平成27年度からの継続展示を含め、年4回のテーマ展を開催。入館者数は46,971人。 昭和の小部屋のコーナー展示替えを年8回行った。 2階市民ギャラリーにて昔の写真等の資料展示を2回開催。 学校からの見学への解説対応、学校等への出前講座を行った。</p>

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	郷土資料館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	02	郷土資料館展示事業

整理番号	
106030103	
総合戦略 整理番号	32103

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況	28年度成果指標(アウトカム)の達成状況
活動指標どおり、平成26年度からの継続展示を含め、年4回のテーマ展開催、昭和の小部屋のコーナー展示替えを年8回開催、2階市民ギャラリーにて昔の写真等の資料展示2回開催の上、学校からの見学への解説対応、学校等への出前講座を行った。	年間入館者数は、目標数値を大きく超え46,971人であった。

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	学芸員の調査研究を踏まえ、文化財等を展示し、広く市民に郷土の歴史文化に触れて、学習できる機会を提供するものである。	A:有効である	近隣他館との類似性はあるものの、唯一無二の歴史資料、発掘資料等を展示している。	A:効率的である	必要予算は極めて少なく効率的である。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
B:実現に向けて取り組んでいる	ホームページ公表、広報、情報誌掲載を行っているが、更なるPRを考える必要あり。	A:実現している	休日日以外はほぼ全て観覧できる日程としている。	B:実現に向けて取り組んでいる	市史編纂業務による成果として、新たな資料提供者からの協力、新資料の展示を行っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	年間入館者の数値目標を上回っており、見学対応、出前講座等を活発に行っている。会場内のテーマ展においては、年に4回行い、市史編纂事業による成果などを展示した。また、2階市民ギャラリーの使用に空きが生じた時期には臨時的に郷土の昔の写真展示を行っている。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	見学対応、出前講座等を積極的に行っており、文化財や郷土の歴史文化に対する理解を深めるという目的に資する取り組みであり、一定の効果があつたものと認められる。引き続き、企画内容やPR方法の工夫等により、事業の充実に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

29年度活動指標(アウトプット)の設定	29年度成果指標(アウトカム)の設定
(開催回数) 平成28年度からの継続展示を含め、年4回のテーマ展を行う。昭和の小部屋のコーナー展示替えを年8回行う。2階市民ギャラリーにて昔の写真等の資料展示を行う。学校からの見学への解説対応、学校等への出前講座を行う。	(入館者数)年間30,000人の入館者数を目標数値とする。

29年度における事務事業スケジュール	平成29年度における具体的な目標
常設展示を開催すると共に、テーマ展、昭和の小部屋コーナー等の展示内容について企画を練り、定期的な展示替えを行う。2階市民ギャラリーは、利用状況に応じ、空き期間が長い場合は、随時、郷土の昔の写真展示等を行う。学校からの見学依頼、出前講座の依頼があつた場合は、積極的に対応する。	常設展示の他、テーマ展、昭和の小部屋コーナー展示等の開催により、広く文化財を公開し、文化財保護思想を普及する。

CHECK (評価)

A C T (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	02	市史編纂事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	07	市史編纂事業

実施計画整理番号	
106030201	
総合戦略整理番号	32103

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>昭和30年に本納町史が、昭和41年に茂原市史が刊行されて以来、市史の発行は無い。市制70周年を目処に市史刊行を行ない、市民に茂原市の歴史の変遷を明らかにしてゆくとともに、郷土愛を育み、後世に市の歴史を継承する。</p> <p>平成28年度の具体的な目標</p> <p>基礎調査、目録作成をさらに進め、次の足がかりとなる市史編纂委員会を組織できるような体制づくりを行う。</p>	<p>市内外にある茂原市に関する歴史資料等の所在調査、目録作成を行なう。また古来から郷土に伝わる風俗・慣習については、地元の古老が知るところが大きい為、聞き取り調査を行なう。</p> <p>平成28年度スケジュール</p> <p>古文書・歴史資料の調査、目録作成を継続し、市史編纂に向けた準備を進めていく。市史編纂準備委員会を組織して、平成29年度から設置予定の市史編纂委員の設置条例の作成について準備を進める。</p>

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	500	500	494	500	500	498	718	733	558	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	500	500	494	500	500	498	718	733	558

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	資料収集等の基礎調査	500	499	499	古文書調査員3名の調査員賃金。全24回実施。今後も継続。
②	市史編纂委員会の設置	218	234	59	市史編纂準備委員会(6名)の謝礼、全4回、廃止。平成29年度からは市史編さん委員会を設置、報酬、全5回。成果物として史料集1冊刊行(03事業印刷製本費)、継続。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		718	733	558	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、市内外の歴史資料等の収集および基礎調査を実施(年間計24回)。 ・新治村の名主や村長を務めた素封家篠崎家や、豊田村の民権家斎藤自治夫関係の資料等を大量に収集、翻刻、目録作成作業を進めた。中でも篠崎家資料は新出資料であり、新茂原市史の重要な資料となる。 ・市史編纂準備委員会により、市史編さんの基本の方針を協議決定した。 ・平成29年度から設置する市史編さん委員会条例の制定と、委員の選定を行った。

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	02	市史編纂事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	07	市史編纂事業

整理番号	
106030201	
総合戦略 整理番号	32103

<p>28年度活動指標(アウトプット)の達成状況</p> <p>基礎調査回数 市史編纂準備委員会4回開催</p>	<p>28年度成果指標(アウトカム)の達成状況</p> <p>基礎調査(目録作成)を24回開催。 茂原市史編纂準備委員会設置要綱により、各分野の学識経験者6名を組織。同委員会を4回開催し、市史編さん委員の設置条例制定を行い次年度からの活動の4足がかりができた。 『茂原の古文書史料集第21集』100部を発行した。</p>	
<p>妥当性の評価とその理由</p>	<p>有効性の評価とその理由</p>	<p>効率性の評価とその理由</p>
<p>A:妥当である</p> <p>市史の発行という性質上、自治体が関与すべき事業である。</p>	<p>A:有効である</p> <p>昭和30年に本納町史が、昭和38年に豊岡村誌、昭和41年に茂原市史が発行されたのみで、旧本納町合併後の市史発行はない。</p>	<p>A:効率的である</p> <p>古文書調査員3名、市史編纂準備委員6名は、経験豊富で専門性の高い人物である。民間委託に比し安価で効率的である。</p>
<p>「情報の共有」の状況とその理由</p>	<p>「参加」の状況とその理由</p>	<p>「協働」の状況とその理由</p>
<p>B:実現に向けて取り組んでいる</p> <p>歴史資料等の提供呼びかけを広報等に随時掲載しているが、市史編さんに向けて具体的な呼びかけやPRが必要。</p>	<p>B:実現に向けて取り組んでいる</p> <p>資料提供という形で広義に協力頂いている。編さん作業の進行状況に応じ、更に具体的な資料提供の呼びかけが可能となる。</p>	<p>C:実現の余地がない</p> <p>専門的知識を必要とするため、諮問との協働には適さない。</p>
<p>所管による評価とその理由、課題・問題点</p>		
<p>A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</p>	<p>広報等での呼びかけに応じ、歴史資料の調査依頼が多く寄せられた。また、以前から存在が知られていながら未調査であった下太田の鬼原・篠塚両家と永吉の千葉本家と林家の調査が可能となり、新茂原市史の貴重な史料となった。今後も継続して事業を進めていきたい。 一方、準備委員会により市史の構成や基本方針が話し合わせ、平成29年度から組織する市史編さん委員会の条例も制定した。</p>	
<p>企画政策課での評価とその理由</p>		
<p>A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)</p>	<p>当初の目標である、市史編纂委員会条例を制定し、今後の市史刊行に向けての成果があったものと認められる。今後も歴史資料等の調査を進め、市史刊行に向けた取り組みを推進するものとする。</p>	
<p>政策調整会議での評価とその理由</p>		
<p>庁議における方針</p>		

<p>29年度活動指標(アウトプット)の設定</p> <p>基礎調査30回実施 市史編さん委員会5回開催 ホームページでのPR</p>	<p>29年度成果指標(アウトカム)の設定</p> <p>得られた資料数 刊行した報告書数</p>
<p>29年度における事務事業スケジュール</p> <p>古文書調査を継続し、併せて関係機関所有の資料調査を実施する。 市史編さん委員会を組織・開催し、具体的な資料調査。 ホームページ上に市史編さん事業の情報提供を行う。</p>	<p>平成29年度における具体的な目標</p> <p>基礎調査、目録等作成をさらに進める。 市史編さん委員会で市史の構成について協議検討する。 原稿作成のための資料調査を進める。 ホームページに市史編さん事業を掲載 記念イベントの計画作り</p>

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	01	青少年健全育成事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	04	青少年健全育成事業

実施計画整理番号	
107010101	
総合戦略整理番号	-

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	青少年の健全育成を図る。	関係団体の助成及び青少年の健全育成事業を実施する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
茂原少年少女発明クラブ、子どもセンターなどの関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	・青少年の健全育成の推進を図るため、関係団体に補助金を交付、活動を支援。 ①青少年相談員連絡協議会 947千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催(1回)	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,670	1,670	1,670	1,670	2,401	2,394	1,670	2,399	2,392
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	400	400	400	400	400	400	400	400	400
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,270	1,270	1,270	1,270	2,001	1,994	1,270	1,999

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	青少年相談員の活動支援	811	1,006	1,006	青少年相談員連絡協議会活動に補助金を交付、活動を支援した。今後も引き続き活動を支援していく。
②	スポーツ大会の開催	53	53	53	青少年相談員連絡協議会と共催でつつじマラソン大会を開催した。今後も事業を継続する。
③	青少年育成茂原市民会議・青少年問題協議会の開催	513	1,022	1,015	青少年育成茂原市民会議活動に補助金を交付、活動を支援した。今後も引き続き活動を支援する。青少年問題協議会を開催、青少年に関する事項を協議した。今後も継続する。
④	茂原少年少女発明クラブの活動支援	56	57	57	少年少女発明クラブ活動に補助金を交付し、活動を支援した。引き続き活動を支援していく。
⑤	子どもセンターの運営支援	237	261	261	子どもセンター事業に補助金を交付し、活動を支援した。今後も活動を支援する。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		1,670	2,399	2,392	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・	青少年の健全育成の推進を図るため、関係団体に補助金を交付し活動を支援した。
①	青少年相談員連絡協議会 947千円(つつじマラソン大会、グラウンドゴルフ大会、パトロール等)
②	青少年育成茂原市民会議 986千円(少年の主張大会、ジャンピング大会、標語コンクール、講演会等)
③	少年少女発明クラブ 57千円
④	茂原市子どもセンター 261千円
・	青少年問題協議会を開催(1回)

D
O
(
実
施
)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	01	青少年健全育成事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	04	青少年健全育成事業

整理番号	
107010101	
総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 補助金の交付件数 4件 青少年問題協議会の開催回数 1回 		<ul style="list-style-type: none"> 活動が活性化された団体数 4団体 事業の参加人数 つつじマラソン大会906人、主張大会291人、ジャンピング大会568人 青少年問題協議会の参加者数 16人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	青少年健全育成の充実を図るためには、関係団体の活動は不可欠であり、活動支援は妥当である。	A:有効である	関係団体の活動は、青少年育成体制、青少年育成事業の充実、環境浄化、非行防止につながるもので、活動支援は有効である。	A:効率的である	活動を維持、継続していくため、必要な費用である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	ホームページ、広報、各団体の広報紙により活動等を公表している。	A:実現している	青少年問題協議会、青少年育成茂原市民会議運営委員会、青少年相談員連絡協議会評議会等の意見を反映している。	A:実現している	青少年相談員連絡協議会と共催でつつじマラソン大会を開催している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	青少年の健全育成は継続的な活動により成果が出てくるものであるため、関係団体の活動や団体との共同事業は今後も継続していく必要がある。また、活動をより効果があるものにするため、引き続き広くPRに努めていく必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、青少年の健全育成の目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。今後も関係団体との連携を強化するとともに、PRや情報提供の充実に努めるものとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
庁議における方針						

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 補助金の交付件数 青少年問題協議会の開催回数 		<ul style="list-style-type: none"> 活動が活性化された団体数 事業の参加人数 青少年問題協議会の参加者数 	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標		
<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成の推進を図るため、関係団体に補助金を交付、活動を支援。①青少年相談員連絡協議会 947千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③少年少女発明クラブ 57千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 青少年問題協議会の開催(1回) 		<ul style="list-style-type: none"> 関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実に図る。 		

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

実施計画整理番号	
107010201	
総合戦略整理番号	-

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	幼児・児童を持つ保護者を対象に教育学級を開催し、幼児・児童の健やかな成長を推進する。	3歳児の保護者が対象の『幼児期家庭教育学級』、幼稚園児・小学生の保護者が対象の「家庭教育学級」、就学前の保護者が対象の「就学时子育て講座」を開催する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
家庭教育学級の参加者の増加を図る。	①幼児期家庭教育学級 実施予定回数5回 ②家庭教育学級 実施予定回数53回 ③就学児子育て講座 実施予定回数14回	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	647	647	542	647	647	549	647	633	589
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	647	647	542	647	647	549	647	633

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	幼児期家庭教育学級の開催	155	155	123	3歳児を第1子に持つ親及び養育者を対象に親としての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
②	家庭教育学級の開催	352	338	336	幼稚園4校、小学校14校の保護者に家庭での子の教育等の学習の機会を提供した。引き続き事業を実施する。
③	就学时子育て講座の開催	140	140	130	就学前の子どもを持つ保護者を対象に子育てについての学習の機会を提供した。今後も事業を継続する。
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		647	633	589	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
①幼児期家庭教育学級	実施回数 5回／延べ参加人数 89人
②家庭教育学級	実施回数 68回／延べ参加人数 2,555人
③就学児子育て講座	実施回数 13回／延べ参加人数 683人

DO (実施)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

整理番号	
107010201	
総合戦略 整理番号	-

28年度活動指標(アウトプット)の達成状況		28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
・家庭教育学級の開催回数 ①幼児期家庭教育学級 5回 ②家庭教育学級 68回 ③就学児子育て講座 13回		・参加人数 ①幼児期家庭教育学級 89人 ②家庭教育学級 2,555人 ③就学児子育て講座 683人			
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	社会教育法において、市町村教育委員会の事務の1つに挙げられており、市で関与しなければならない事業であり、総合計画とも整合するものである。	A:有効である	受講後のアンケート結果から判断すると、成果が得られている。	B:やや効率的である	削減の余地はあまりない。学級中の託児を有償ボランティアで行っているが人員確保が難しい。専門業者に委託等を検討するとコストは増大する。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
B:実現に向けて取り組んでいる	各学級、講座の対象者に提供している。	A:実現している	アンケートにより受講者の意見を反映させている。	A:実現している	PTA等と協力して実施している。
所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	保護者のニーズに応じた事業として、目標を達成しているため、現状を維持することが適正と考える。				
企画政策課での評価とその理由					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	家庭教育学級については、小学校全校で実施したことにより、参加者が大幅に増えている。よって目標は達成されていると認められる。今後も、参加者の増加を図るため、周知方法を検討するものとする。				
政策調整会議での評価とその理由					
(斜線表示)					
庁議における方針					
(斜線表示)					

29年度活動指標(アウトプット)の設定		29年度成果指標(アウトカム)の設定	
・家庭教育学級の開催回数		・参加人数	
29年度における事務事業スケジュール		平成29年度における具体的な目標	
①幼児期家庭教育学級 実施予定回数5回 ②家庭教育学級 実施予定回数60回 ③就学児子育て講座 実施予定回数14回		・参加者の増加を図る。	

CHECK (評価)

ACT (改善)

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業

実施計画整理番号	
107010202	
総合戦略整理番号	22304

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所作りと異年齢交流、地域教育力の活性化を目的に夏休み子ども教室を開催する。また、放課後子どもプラン運営委員会において事業の検証を行い、開催校を順次増やすことで推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み子ども教室の開催校を増やす ・放課後子どもプラン運営委員会の開催(年2回) ・コーディネーターの育成のため各種研修会に参加する
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
28年度に新たに1校で実施するため、コーディネーターを確保し、実施校を決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田っ子クラブ 期間:7/21~7/27 5日間 会場:豊田小学校 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/28~8/3 5日間 会場:緑ヶ丘小学校 ・中の島っ子クラブ 期間:8/4~8/10 5日間 会場:中の島小学校 ・茂原っ子クラブ 期間:8/18~8/24 5日間 会場:茂原小学校 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/24~8/26 3日間 会場:鶴枝小学校

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費		千円	376	376	268	376	376	246	432	377	289
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	178	250	250	163	288	250	192
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	126	126	90	126	126	83	144	127	97

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	放課後子どもプラン運営委員会の開催	88	88	73	事業実施前後に1回ずつ、年2回実施。事業の検討と検証を行った。
②	夏休み子ども教室の運営	344	289	216	中の島小学校、緑ヶ丘小学校、豊田小学校、茂原小学校、鶴枝小学校の5校で実施した。
③		0	0	0	
④		0	0	0	
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		432	377	289	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・豊田っ子クラブ 期間:7/21~7/27 平日5日間 会場:豊田小学校 申込児童数:51名 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/28~8/3 平日5日間 会場:緑ヶ丘小学校 申込児童数:51名 ・中の島っ子クラブ 期間:8/4~8/10 平日5日間 会場:中の島小学校 申込児童数:50名 ・茂原っ子クラブ 期間:8/18~8/24 平日5日間 会場:茂原小学校 申込児童数:31名 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/24~8/26 平日5日間 会場:鶴枝小学校 申込児童数:54名 	

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010202	
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業	9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業	総合戦略 整理番号	22304

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況				28年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・豊田っ子クラブ 期間:7/21~7/27 平日5日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/28~8/3 平日5日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/4~8/10 平日5日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/18~8/24 平日5日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/24~8/26 平日3日間				・豊田っ子クラブ 延参加児童数:206名 (1日平均41.2名) ・緑ヶ丘っ子クラブ 延参加児童数:189名 (1日平均37.8名) ・中の島っ子クラブ 延参加児童数:199名 (1日平均39.8名) ・茂原っ子クラブ 延参加児童数:98名 (1日平均24.5名) ・鶴枝っ子クラブ 延参加児童数:122名 (1日平均30.5名)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	国の推進する放課後子ども総合プランによる事業であり、妥当である。	A:有効である	事業の意図する子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢間交流は達成されており、有効である。	A:効率的である	費用は運営委員の報酬、コーディネーターの謝礼及び最低限の消耗品費のみであり、削減の余地はない。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	広報等	A:実現している	事業の検証等を行う放課後子どもプラン運営委員会に市民が参加している。	A:実現している	コーディネーター、ボランティアとして地域住民が運営に参画している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教室の運営は地元出身のコーディネーターや長寿会・高校生などのボランティアによって適正に行われ、事業目的である子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢間交流は概ね達成できた。参加児童及び保護者からも好評を得ている。今後の課題としては、開催校の拡充と、それに伴う新規コーディネーターの発見及び育成がある。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	夏休み子ども教室については、今年度より1校増加しており、多くの児童が利用していることから、一定の成果があったものと認められる。今後も市内全校の開催を目指し、支援の充実及び人員確保等を図るものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定				29年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・夏休み子ども教室の開設数				・参加児童数			
29年度における事務事業スケジュール				平成29年度における具体的な目標				
・豊田っ子クラブ 期間:7/24~7/28 平日5日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/4 平日5日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/21~8/25 平日5日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/2~8/4 平日3日間				平成28年度と同様に5小学校で開催する。 また、平成30年度に開催校を1校増やす予定であるため、29年度中に開催校を決定し、コーディネーターを確保する。				

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	03	青少年相談指導事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	04	01	街頭補導事業

実施計画整理番号	
107010301	
総合戦略整理番号	-

P L A N (計 画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	茂原市青少年補導員連絡協議会と連携し、街頭補導・啓発補導を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「夜間の補導活動」を充実する。 ・「列車補導」「茂原七夕まつり」「県下一斉パトロール」等の啓発補導を充実する。 ・他支部との連携や研修会へ補導員とともに積極的に参加する。
	平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
青少年指導センターと関係機関との情報の共用化と迅速な対応を図る。 少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	①街頭補導活動 → 夜間補導(6月～3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(8月)、列車補導(10～11月) ②相談活動 → 通年(随時)、悩み・相談用しおり配付(10月) ③非行防止の啓発 → リーフレット配付(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ④子どもの安全を守る活動 → 登下校時のパトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)	

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費		千円	824	824	824	824	902	902	824	1,090	1,077
財 源 内 訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	250	250	250	0	250	250	250
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	574	574	574	574	652	902	574	840	827

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	街頭補導活動の実施	781	930	917	578回の街頭補導を実施し、491人(前年比+103人)を補導した。今後も非行防止、早期発見のため関係機関と連携し、巡回を強化していく。
②	相談活動の実施	0	0	0	205件(前年比+41件)の相談を受理した。中・高生に関する情報提供が主である。今後も相談窓口としての周知に努め、充実を図っていく。
③	非行防止の啓発	43	160	160	安心・安全な使用についてのリーフレット及び悩み相談啓発しおりを市内小中学校全児童生徒・保護者、職員に配付し啓発に努めた。今後も工夫・改善し継続していく。
④	子どもの安全を守る活動の実施	0	0	0	登校時(週3)・下校時(週5)の巡回と不審者発生による巡回を実施した。8月より巡回強化のため、職員1名増員した。今後も増員体制が必要である。
⑤		0	0	0	
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		824	1,090	1,077	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
①	街頭補導活動(夜間補導56回、列車補導3回、七夕まつり補導3回、県下一斉パトロール1回)
②	安心・安全な使用のためのリーフレット「ケータイ&スマホは正しく安全に使いましょう」の配付(5月) 悩み・相談用しおりの配付(10月)

D
O
(
実
施
)

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010301	
1	07	01	03	青少年相談指導事業	9	05	04	01	街頭補導事業	総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況					28年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、県下一斉パトロール、列車補導等、年間63回実施。 ・千葉ブロック研修会(2回)、中学校区研修会(1回)、その他の研修会参加により、識見を高め、青少年健全育成に取り組んだ。 ・不審者発生状況の把握 					<ul style="list-style-type: none"> ・補導状況(491人補導、主な行為:い集行為・道路交通法違反) ・青少年補導員(補導・研修会)参加率67% ・相談状況(相談件数205件、関係機関からの情報提供が主) ・不審者発生状況(市内14件・近隣市町村4件)の情報提供 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である 青少年健全育成を目指した街頭補導事業は、公的な関係機関及び市民との連携が必要である。その推進役として自治体が関与すべき事業である。		A:有効である 日々の地道な補導活動や関係機関との情報共有等は、青少年の健全育成・非行防止に役立っている。			B:やや効率的である 今年度より報酬額の増額となったが、補導員の活動実績を考慮すると他市と同額程度の報酬額を支給すべきである。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している 広報紙「くす」により補導・相談状況及び不審者情報を掲載し市民に提供している。また、不審者情報はホームページで公表している。		A:実現している 指導センター運営協議会を年2回開催し、10名の委員から事業に対する助言をいただいている。			A:実現している 補導員とセンター職員合同で街頭補導活動を行っている。				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		学校や関係機関と情報の共有化を図り、情報を活用した街頭補導活動を実施することができ、非行防止・早期発見につながった。また、リーフレットの配付や広報紙「くす」等で啓発したことにより、重大な事案は発生しなかった。インターネット上のトラブルについて、早期対応を図るためにネットパトロールができる環境整備が必要である。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		いずれの取り組みも、青少年の健全育成という目的に資するものであり、街頭補導の回数の増加により成果があったものと認められる。今後もパトロールの強化を図るものとする。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定					29年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、県下一斉パトロール、列車補導等、年間63回実施。 ・千葉ブロック研修会(2回)、中学校区研修会(1回) その他の研修会への参加 ・ネットパトロール ・不審者発生状況の把握 					<ul style="list-style-type: none"> ・補導状況(人数、内容) ・青少年補導員(補導・研修会)参加率 ・相談状況(人数、内容) ・ネットパトロール実施状況(回数、人数) ・不審者発生状況の情報提供 				
29年度における事務事業スケジュール					平成29年度における具体的な目標					
①街頭補導活動→夜間補導(6月～3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10～11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配付(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配付(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)					青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。					

平成28年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	08	01	01	国際化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	02	国際化推進事業

実施計画整理番号	
108010101	
総合戦略整理番号	-

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
多くの市民が異文化に触れ、交流に参加できる機会を創出するとともに、姉妹都市交流などの国際交流活動を通じて国際感覚や意識づくりに努める。また、増加する外国人市民と、お互いの価値観や文化を尊重しながら暮らすことのできる地域づくりを国際交流協会などとの協働により推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市交流を推進し、学生や市民の国際交流の機会を創出する ・国際交流協会などと連携しながら草の根レベルの活動を支援し、市民の国際意識の高揚を図る
平成28年度の具体的な目標	平成28年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市交流による相互理解・友好親善の促進 ・国際交流に係る取組の市民への周知 ・国際交流協会の自主財源の確保、会員の獲得 ・国際交流協会の活動の充実 ・在住外国人への支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市へ茂原市長訪問団を派遣する。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・在住外国人へが安心して暮らせる地域を目指し、在住外国人を支援する事業を検討する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。

区分	単位	H26年度			H27年度			H28年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,761	1,762	1,324	985	1,138	284	3,643	3,493	3,480	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	1,761	1,762	1,324	985	995	0	3,643	3,393	3,380
	一般財源	千円	0	0	0	0	143	284	0	100	100

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	姉妹都市訪問団の受け入れ	0	0	0	受入れなし。次回受入はH30に実施。今後も4年ごとに受入を実施。
②	姉妹都市への訪問団派遣	2,696	2,201	2,200	市長訪問団15名がソルズベリー市を訪問し、現地のMobara Parkで開催されたMatsuri on Mobaralに参加。様々な分野での意見交換をし、交流を図った。
③	姉妹都市の学生及び少年野球チーム受け入れ	819	0	0	ティンデイルクリスチャンスクールの都合により生徒は来訪しなかった。今後も学生交流を継続する。
④	茂原市国際交流協会等の活動推進	127	100	100	協会事業を拡充し、会員数も増加した。今後も活動が充実するよう支援し、活動拡大を目指す。
⑤	国際交流基金の積立	1	1,192	1,180	定期預金利子及び基金への寄付8件。今後も継続。
⑥		0	0	0	
⑦		0	0	0	
⑧		0	0	0	
⑨		0	0	0	
⑩		0	0	0	
事業費計		3,643	3,493	3,480	

平成28年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・市長訪問団15名がソルズベリー市を訪問し、現地のMobara Parkで開催されたMatsuri on Mobaralに参加し、様々な分野での意見交換及び交流を行い、相互理解を深めた。
- ・国際交流協会では、七夕まつりに参加しPRIに努めるとともに、外国語教室、国際交流パーティー、国際交流バスツアー等の国際交流事業を実施し、市民が国際交流に参加できる機会の創出及び異文化間の相互理解、国際意識の醸成を図った。
- ・国際交流協会事業として、在住外国人のための安全安心教室及び在住外国人支援のための研修の機会を創り、多文化共生社会の実現を目指した。

平成28年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	108010101	
1	08	01	01	国際化推進事業	2	01	09	02	国際化推進事業	総合戦略 整理番号	-

CHECK (評価)	28年度活動指標(アウトプット)の達成状況					28年度成果指標(アウトカム)の達成状況					
	<ul style="list-style-type: none"> ・市長訪問団15名がソルズベリー市を訪問し交流を図った。 ・国際交流協会会員の加入促進: 41名の新規会員が加入し、会員数55名となった。 ・国際交流協会主催国際交流事業の実施回数: 12回 (PR事業1回、日本語学習支援事業2回、国際交流事業6回、外国語教室3教室) 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数: 12回 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数: 個人会員41名増 					
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由					
	A: 妥当である	国際交流の実施により国際意識の醸成や異文化理解が進み、多様性を認める社会の構築に貢献している。			B: やや有効である	国際交流活動に参加している市民は一部に限定されており、在住外国人への支援も十分とはいえない。			A: 効率的である	国際交流事業に必要な様々なスキルやノウハウを持つ個人や団体を有する国際交流協会との連携により、行政だけでは成し得ない事業を効率的に実施できている。	
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由					
	A: 実現している	市ホームページ、協会ホームページ、Facebook、自治会回覧、市広報などを利用し、PRに努めている。			A: 実現している	国際交流協会会議には在住外国人を含む市民が参加し、企画から共に取り組んでおり、市民意見を積極的に取り入れ事業を実施している。			A: 実現している	国際交流協会活動は在住外国人を含む市民との協働が実現できている。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点										
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市訪問を通じて、国際意識の醸成・異文化理解が図れた。 ・国際交流協会の会員数は増加しており、事業も年々充実して来ており、協会と協働で国際交流事業を実施することにより、市民が国際交流事業に参加する機会を創出できている。 ・在住外国人が安心・安全に暮らせる取り組みは年々充実して来ている。 									
	企画政策課での評価とその理由										
	A: 十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	国際交流協会の会員数の増加により、市民の国際理解及び国際化意識の醸成されたことにより、当初の目標は概ね達成できたと認められる。今後は在住外国人の対しても、安心して暮らせる地域を目指すとともに、支援事業を検討するものとする。									
政策調整会議での評価とその理由											
庁議における方針											

ACT (改善)	29年度活動指標(アウトプット)の設定					29年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市訪問団の受け入れ回数及び人数 ・姉妹都市ソルズベリー市に関する情報提供回数 ・国際交流協会会員の加入人数 ・国際交流協会主催国際交流事業の実施回数 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加機会の創出回数 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数 				
29年度における事務事業スケジュール					平成29年度における具体的な目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市長訪問団を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・在住外国人へが安心して暮らせる地域を目指し、在住外国人を支援する事業を検討する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。 					<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市訪問団の受け入れを通じ、様々な分野での国際交流を図る。 ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。 					